

一般社団法人 日本エネルギー学会  
第 100 回定時総会

日 時 2025 年 2 月 28 日 (金) 午後 1 時より  
会 場 日本大学(駿河台校舎) 1 号館 6 階 CST ホール  
東京都千代田区神田駿河台 1-8-14  
TEL. 03-3259-0514 (庶務課)

議 案

- 第 1 号議案 2024 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの  
事業ならびに会員状況報告の件
- 第 2 号議案 2024 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日までの  
貸借対照表, 正味財産増減計算書, 財産目録の承認の件
- 第 3 号議案 2025・2026 年度理事・監事選任の承認の件
- 第 4 号議案 2025 年度補欠理事の承認の件
- 第 5 号議案 2025 年度事業計画ならびに収支予算の承認の件



一般社団法人  
日本エネルギー学会  
JIE The Japan Institute of Energy

# 第 100 回定時総会ならびに関連行事

## 次 第

13:00～14:00 第 100 回定時総会 (6 階 CST ホール)

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 議案審議
4. 閉会

14:20～14:50 2024 年度日本エネルギー学会表彰式 (6 階 CST ホール)

1. 開会
2. 選考経過報告
3. 表彰
4. 会長挨拶
5. 閉会

15:00～16:15 受賞者講話 (6 階 CST ホール)

1. エネルギーシステムの設計と評価に関する研究の推進と、エネルギー総合学の学理の確立  
東京大学大学院 教授 松橋 隆治
2. 再生可能エネルギーを主体とした低炭素エネルギーシステムに関する先進的研究  
東北大学大学院 客員教授 山本 博巳
3. 脱炭素社会を目指す“高砂水素パーク”を中心とした取組み  
三菱重工業株式会社
4. 本会の発展に対する功績  
日鉄テクノロジー株式会社 テクニカルアドバイザー 齋藤 公児
5. 本会の発展に対する功績  
中部大学名誉教授 行本 正雄

16:30 ～ 17:30 特別講演 (6 階 CST ホール)

カーボンニュートラルと日本のエネルギー政策

国際大学学長、東京大学名誉教授、一橋大学名誉教授 橘川武郎

17:45 ～ 19:15 祝賀懇親会 (2 階カフェテリア)

# 第1号議案 2024年1月1日から2024年12月31日までの 事業ならびに会員状況報告の件

## 1. 本会事業報告

### 1-1 委員会、会合等

#### ○定時総会

第99回定時総会を2024年2月29日（木）13:00から学士会館にて開催し、次の議案について審議の上、原案どおり承認された。

第1号議案 2023年1月1日から2023年12月31日までの事業ならびに会員状況報告の件

第2号議案 2023年1月1日から2023年12月31日までの貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録の承認の件

第3号議案 2024年度理事選任の承認の件

第4号議案 2024年度事業計画ならびに収支予算の承認の件

なお、定時総会関連行事として、2023年度学会表彰表彰式、同受賞者講話および特別講演については、当学会正会員、維持会員向けに、会場およびオンライン配信にて開催した。

【特別講演】「共創地球学～地球と人類の共進化にむけて」

（京都芸術大学教授、NPO法人Earth Literacy Program代表理事 竹村眞一氏）

#### ○理事会 6回

2024年度は定例理事会を5回（1/26、3/28、6/25、9/24、11/20）、臨時理事会を1回（2/29）、以下のとおり開催した。

(1) 2023年度第6回定例理事会 2024年1月26日（金）15:00～16:30

於：学会事務局およびオンライン、出席理事 16名（理事総数 21名）

〔審議事項〕

会長および専務理事から業務報告（12月下旬まで）

1. 議事録 承認の件

2. 会員入退会 承認の件

3. 2024年度理事選任の承認の件

4. 第99回定時総会議案 承認の件

① 第1号議案 2023年1月1日から2023年12月31日までの事業ならびに会員状況報告の件

② 第2号議案 2023年1月1日から2023年12月31日までの貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録の承認の件

③ 第3号議案 2024年度 理事の承認の件

④ 第4号議案 2024年度 事業計画ならびに収支予算の承認の件

〔連絡事項〕

5. 休職者の職場復帰プログラムについて

6. 各部会、委員会、各種行事進捗報告の件

7. その他（退任理事挨拶、今後の理事会スケジュール等）

(2) 2024年度第1回臨時理事会 2024年2月29日（木）14:00～14:10

於：学士会館203号室およびオンライン、出席理事 17名（理事総数 21名）

〔審議事項〕

1. 2024年度 副会長選任の件

2. 2024年度 総務委員会委員長承認の件

(3) 2024年度第2回定例理事会 2024年3月28日（木）13:30～15:30

於：学会事務局およびオンライン、出席理事 16名（理事総数 21名）

〔審議事項〕

会長および専務理事から業務報告（2月下旬まで）

1. 議事録 承認の件

2. 会員入退会 承認の件

3. 収支報告（2月末）の件

4. 2024年度表彰委員会 設置の件

5. 2025・2026年度役員候補選出委員会 設置の件

6. 補欠理事選出方法の見直しおよび関連規程類の改訂・制定の件

[連絡事項]

7. 第99回定時総会の報告

8. (一社)石炭・炭素資源有効利用研究会事務業務受託検討

9. 各部会、委員会、各種行事進捗報告の件

10. その他(今後の理事会スケジュール等)

(4) 2024年度第3回定例理事会 2024年6月25日(火) 15:00~16:30

於: 学会事務局およびオンライン、出席理事 14名(理事総数 20名)

[審議事項]

会長および専務理事から業務報告(5月下旬まで)

1. 議事録承認の件

2. 会員入退会承認の件

3. 収支報告(5月末)の件

4. 2024年度「論文賞」受賞者承認の件

5. 日本液体微粒化学会と液体微粒化部会統合の件

6. 規程の改訂承認の件(表彰規程、旅費規程)

[連絡事項]

7. 石炭・炭素資源有効利用研究会事務受託の件

8. 維持会員紹介用ポスターの件

9. 学生のための国際会議発表支援審査結果の件

10. 各部会、委員会、各種行事進捗報告の件

11. その他(今後の理事会スケジュール等)

(5) 2024年度第4回定例理事会 2024年9月24日(火) 13:30~14:30

ハイブリッド開催(於: 学会事務局およびオンライン)、出席理事 15名(理事総数 18名)

[審議事項]

会長および専務理事から業務報告(8月下旬まで)

1. 議事録承認の件

2. 会員入退会承認の件

3. 収支報告(8月末)の件

4. 規程の改訂承認の件

[連絡事項]

5. 各部会、委員会、各種行事進捗報告の件

6. その他(理事会スケジュール)

(6) 2024年度第5回定例理事会 2024年11月20日(水) 13:00~14:50

於: 日本大学駿河台キャンパス1号館122号室、出席理事 11名(理事総数 18名)

[審議事項]

会長および専務理事から業務報告(10月下旬まで)

1. 議事録承認の件

2. 会員入退会承認の件

3. 収支報告(10月末)の件

4. 「2024年度学会表彰」学会賞、進歩賞、功績賞、奨励賞承認の件

5. 2025・2026年度役員候補選出承認の件(役員候補選出委員会報告)

6. 2025・2026年度支部長選任承認の件(西部支部)

7. 第100回定時総会招集承認の件

8. 日本液体微粒化学会と液体微粒化部会の統合承認の件

9. 石炭科学部会と重質油部会の統合承認の件

10. 規程の改訂承認の件(旅費規程)

[連絡事項]

11. インパクトファクター取得の件

12. 各部会、委員会、各種行事進捗報告の件

13. その他(学会の状況、今後の理事会スケジュール等)

### ○監事会（監査） 1回

監事会を2024年1月18日（木）15:00～16:30、学会事務局において開催し、2023年度学会業務の監査を以下のとおり実施した。

- ・2023年1月1日から2023年12月31日までの会計および業務監査
  1. 2023年12月末における貸借対照表、正味財産増減計算書および財産目録の監査
  2. 事業ならびに会員状況についての監査
  3. 銀行預金通帳の照合

### ○名誉会員・参与懇談会 1回

・2024年2月29日（木）11:30～12:30、学士会館にて開催された（新型コロナウイルス流行前の2019年2月開催以来5年ぶり）。

### ○企画委員会 1回

(1) 第1回企画委員会 11月7日（木）13:00～15:30 Web開催  
（議事事項）

1. 石炭科学部会と重質油部会の統合について
2. 液体微粒化部会規程の制定について  
（報告事項）
3. 2024年度 部会・支部活動状況
4. 事務局からの報告
5. その他（連絡事項）

### ○総務委員会 7回（1/10、3/18、5/1、6/11、9/4、10/23、11/7）

(1) 第1回総務委員会 1月10日（水）書面審議（決裁1月12日）  
（報告事項）

1. 職員（休職者）の状況および復職に向けた進め方について

(2) 第2回総務委員会 3月18日（月）書面審議（決裁3月22日）  
（審議事項）

1. 補欠理事選出方法の見直しについて
2. 事務局長処遇要領の改訂について
3. 副事務局長処遇要領の制定について

(3) 第3回総務委員会 5月1日（水）書面審議（決裁5月14日）  
（報告事項）

1. 職員の定年退職および再雇用希望に関する対応について

(4) 第4回総務委員会 6月11日（火）書面審議（決裁6月17日）  
（審議事項）

1. 表彰規程・表彰規程実施要領の改訂について
2. 旅費規程の改訂について

(5) 第5回総務委員会 9月4日（水）書面審議（決裁9月10日）  
（審議事項）

1. パートタイム職員就業規則の改訂について

(6) 第6回総務委員会 10月23日（水）書面審議（決裁10月30日）  
（審議事項）

1. 液体微粒化部会規程の制定について
2. 日本液体微粒化学会からの「寄付に関する覚書」の締結について

(7) 第7回総務委員会 11月7日（木）書面審議（決裁11月13日）  
（審議事項）

1. 旅費規程の改訂について
2. 講演料及び原稿料支払規程の改訂について

### ○財務委員会 1回（10/23）

(1) 第1回財務委員会 10月23日（水）書面審議（決裁10月30日）  
（審議事項）

1. 日本液体微粒化学会からの「寄付に関する覚書」の締結について

## ○表彰委員会 3回 (5/22、7/26、11/5) Web 開催

- (1) 本年度論文賞受賞候補者の承認 (3件) (5/22)
  - (2) 本年度選考委員の承認 (7/26)
  - (3) 本年度学会賞、進歩賞、功績賞、奨励賞受賞候補者の決定 (11/5)
    - 学会賞 (学術部門) 2件、学会賞 (技術部門) 1件、
    - 進歩賞 (学術部門) 3件、進歩賞 (技術部門) 1件、
    - 功績賞 2件、奨励賞 8件
- ・その他表彰選考委員会 6回
    - 論文賞－編集委員会 (1次選考: 2/20、2次選考: 4/15)
    - 奨励賞－液体微粒化部門 (2023/12/27)
    - 奨励賞－バイオマス部門 (2023/12/7)
    - 奨励賞－大会部門 (9/13)
    - 奨励賞－石炭科学会議部門 (10/30)

## ○部会長・支部長連絡会 2024年11月20日 (木) 15:00～16:20

於: 日本大学駿河台キャンパス 1号館 122号室

- ・情報提供 (学会の状況、事務局の役割、学会誌インパクトファクター取得 等)
- ・各分会・支部活動について (近況、今後の予定など意見交換)

## ○編集委員会

- ・日本エネルギー学会誌編集小委員会 2回 (Web 開催 2/20、4/15)
  - － 投稿論文について、Web 上 (J-STAGE) で最新号まで公開継続。
  - － 論文賞受賞候補者について審議
- ・日本エネルギー学会機関誌えねるみくす編集小委員会 6回 (Web 開催 1/16、3/18、5/14、7/18、9/9、11/18)
  - － 特集記事および連載講座について、2024～2025年度の編集計画を策定
  - － 会誌9月号 (Annual Energy Reviews 号) の発行

## ○出版委員会 3回 (7/18、9/9、11/18) (編集委員会と合同会議)

- ・「持続可能な社会におけるプラスチックの使い方 (仮題)」; 目次案確認
- ・「シリーズ 21世紀のエネルギー 核融合炉入門」; 前書、目次案確認
- ・「持続可能な社会のためのエネルギーの事典 (仮題)」; 刊行企画確認

## ○大会実行委員会

- ・大会実行委員会 2回 (Web 開催 1/22、9/13)
  - (1) 大会基本事項決定 (日程、会場、開催方法、交流会、テクニカルツアー、募集要項 等) (1/22)
  - (2) 大会実施報告、奨励賞候補者選考、ポスター発表賞選考 (9/13)

## ・第33回日本エネルギー学会大会 (2024年8月7日、8日、テクニカルツアー 8月9日)

開催場所: 東京・早稲田大学 (参加者: 333名)

【研究発表】 130件 (口頭発表 107件、ポスター発表 23件)

【2024年度「論文賞」表彰式および受賞者講演】

【特別講演】

1. 「我が国の CCS 政策について」 慶野吉則 (資源エネルギー庁 資源・燃料部 CCS 政策室長)

【基調講演】

1. 省エネルギー・消費者行動分野「都市・建築の環境についての課題解決－建築設備に関わる立場から－」 内海康雄 (国立高等専門学校機構)
2. リサイクル分野「日本におけるサーキュラーエコノミーの現状と今後の展望」 梅田 靖 (東京大学)
3. 天然ガス分野「カーボンニュートラル時代のハイドレート技術」 大村 亮 (慶應義塾大学)
4. 新エネルギー・水素分野「革新的レトロテクノロジーの蓄熱発電」 岡崎 徹 (エネルギー総合工学研究所)
5. バイオマス分野「木質バイオマスガス化におけるクリンカ生成と添加剤の効果」 二宮善彦 (中部大学)
6. 燃焼・熱利用分野「火力発電分野における三菱重工のカーボンニュートラル戦略」 斉藤圭司郎 (三菱重工業)
7. 石炭・重質油分野「熱エネルギーへの変換に依存しない低品位炭素資源の新規高効率エネルギー

## ○第19回維持会員懇談会 2024年11月20日（木）15:00～16:20

於：日本大学駿河台キャンパス1号館122号室

【講演】「カーボンニュートラルに向けたチャレンジ ～水素・アンモニアの役割～」

村木 茂（一般社団法人クリーン燃料アンモニア協会 会長）

## ○学生のための国際会議発表支援 2件

下記2件の国際会議に参加した学生に対し支援を実施した。

・The 9th Asia Steel International Conference (Asia Steel 2024)

・8th edition of the International Conference on Jets, Wakes and Separated Flows (ICJWSF2024)

## ○IEA/IECC（燃焼改善と排出物低減研究日本委員会）（受託調査）

1. IECC-第21期第3回定例会議・於 群馬大学桐生キャンパス（6/3）

・第21期1年目収支決算、および第21期2年目予算（案）

・IEA/TCP会議報告および最近の状況報告

・勉強会「群馬大学理工学部研究室紹介」および設備見学

## 1-2 刊行

## ○日本エネルギー学会誌「Journal of the Japan Institute of Energy」（電子版、毎月）

査読付き投稿論文（38編） J-STAGEに掲載

## ○日本エネルギー学会機関誌「えねるみくす」6冊発行（電子版・冊子、隔月）

特集記事／トピックス 第103巻 第1号～第6号（第5号はアニュアルレビュー号）

## 1-3 部会関連

## (1) 石炭科学部会

・第61回石炭科学会議（主催：石炭科学部会、コークス工学研究部会、重質油部会）

（10/30～31、於 高松・サンポートホール高松、参加者：68名、テクニカルツアー 11/1）

## 【研究発表】

口頭発表：26件／8セッション

## 【招待講演】

「アンモニアの燃焼利用とNH<sub>3</sub>/H<sub>2</sub>火炎の反応解析」

奥村 幸彦（香川大学）

「循環流動層ボイラ技術によるバイオマス利用の実績と今後の展望」伊藤 一芳（住友重機械工業）

「Gas-to-Lipids バイオプロセスの開発について（カーボンリサイクル実証研究拠点における研究の概要）」

松浦 将吏（中国電力株式会社）

## 【特別講演】

「藻場造成構造物の開発とブルーカーボンへの貢献」

末永 慶寛（香川大学）

## 【テクニカルツアー】

訪問先：三菱マテリアル 直島製錬所

・第61回石炭科学会議 第1回実行委員会（5/10、サンポートホール高松）

・第61回石炭科学会議 第2回実行委員会（8/22、Web開催）

・第61回石炭科学会議 第3回実行委員会（10/30、サンポートホール高松）

## (2) コークス工学研究部会

・第61回石炭科学会議：石炭科学部会と共催（10/30～31）（石炭科学部会欄参照）

・第61回石炭科学会議 実行委員会（石炭科学部会欄参照）

## (3) 重質油部会

・第61回石炭科学会議：石炭科学部会と共催（10/30～31）（石炭科学部会欄参照）

・第61回石炭科学会議 実行委員会（石炭科学部会欄参照）

## (4) 天然ガス部会

・天然ガス部会・資源利用分科会 技術交流会（12/16 於 株式会社INPEX本社）

【講演】天然水素と水素利用

- ・天然ガス部会 科学・反応システム分科会2024年度講演会（09/04 於 日本大学駿河台校舎）

【講演】様々な反応システムを活用するメタンの高度変換技術

1. 光触媒を活用する電気化学的なメタン高度変換技術 天野史章（東京都立大学）
  2. 生体模倣錯体触媒を利用するメタンの高選択的酸化反応 小島隆彦（筑波大学）
  3. 微生物機能を利用したメタンからの有用物質生産 蒲池利章（東京工業大学）
  4. メタン高度変換のための固体表面反応場のデザイン 織田 晃（名古屋大学）
- ・第63回GH（ガスハイドレート）研究会（3/1 於 東京大学柏キャンパス）

【講演】

1. 国プロ開始前のGSJ/AISTでのメタンハイドレート海洋調査、GH研究会の歩み 佐藤幹夫（産業技術総合研究所）
2. Hydrate behavior kinetics at the pore scale at a long timescale 徐 則林（東京大学）
3. Dry Flow Technologyの検証に向けたフローループ試験の開発 二宮周平（東京大学）

【見学会】

東京大学 今野研究室（海底資源開発工学分野）実験装置紹介・今野義浩准教授

- ・第64回GH（ガスハイドレート）研究会  
（8/30 於 産業技術総合研究所つくば西事業所及びWeb開催 参加者45名）

【講演】

ガスハイドレートを利用した技術（CCS、ガス貯蔵、冷熱など）、メタンハイドレート生産開発におけるフローアシュアランス、天然ガスハイドレートの結晶特性等についての講演会

[部会共通]

- ・東京ガス扇島LNG基地見学会（1/30）  
見学内容：概要説明、技術員による基地構内見学・質疑・技術解説
- ・合同幹事会（2回開催）  
第1回（7/9 東京ガス本社+Web開催）  
- 新メンバー紹介、2023年度活動実績、2024年活動方針について  
- えねるみくす年間編集計画（7/18）  
第2回（12/10 東京ガス本社+Web開催）  
- 2025年活動方針確認、活動実績確認、活動計画について

(5) バイオマス部会

- ・2024年度RGBシンポジウム ～GX実現に向けたエネルギー・環境分野の革新的技術～  
（6/6開催 於 東京大学弥生キャンパス フードサイエンス棟中島董一郎記念ホール）  
主催：環境リサイクル部会・バイオマス部会 ※詳細、環境リサイクル部会欄参照
- ・2024年度「バイオマス夏の学校」（8/27 北海道十勝地方、参加者：16名）  
主催：日本エネルギー学会バイオマス部会、NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク  
1. カルビーポテト株式会社帯広工場（木質バイオマスボイラ、蒸気熱利用）  
2. 鹿追町環境保全センターバイオガスプラント見学（バイオガスによる電気・熱・水素）
- ・第12回アジアバイオマス科学会議  
（共催：アジアバイオマス協議会、ホーチミン市工科大学、広島大学）  
（11/21 於 ベトナム・ホーチミン市工科大学、参加者：68名）

【研究発表】

- 口頭発表：23件、ポスター発表：17件
- ・第20回バイオマス科学会議（12/18～20 於 京都大学、参加者123名）  
（共催：日本エネルギー学会 ガス化部会）



## 【研究発表】

口頭発表：24件／6セッション、ポスター発表：28件

## 【基調講演・パネル討論】

(詳細は同時開催の第24回バイオマス関連部会・研究会合同交流会に記載)

## 【テクニカルツアー】12/20 参加者27名

訪問先：八木バイオエコロジーセンター、京都市廃食用油燃料化施設、京都市南部クリーンセンター 第二工場「さすてな京都」

- ・第24回バイオマス関連部会・研究会合同交流会（第20回バイオマス科学会議と同時開催）  
「地域と産業におけるバイオマス利用」

主催：（一社）日本エネルギー学会バイオマス部会，（一社）日本木材学会バイオマス変換研究会，バイオマス・新エネルギー利用研究会，（一財）バイオインダストリー協会 アルコール・バイオマス研究会，木質バイオマス利用研究会，（公社）化学工学会エネルギー部会バイオマス分科会

1. 各部会・研究会（計6個）活動紹介

2. 講演

- (1) 「紙パルプ産業における副産物：リグニン基礎セミナー」

高野俊幸氏，吉永 新氏，河本晴雄氏（京都大学）

- (2) 「バイオマス産業都市におけるバイオマス事例紹介と脱炭素化の取組について（仮）」  
土肥哲哉氏（一般社団法人日本有機資源協会 事務局）

- (3) 「FIT制度下での木質バイオマス発電 —九州地方を中心として—」

佐藤政宗氏（株式会社森のエネルギー研究所 九州営業所長）

- (4) 「地域の未利用資源を活用した新産業創出～「群馬県のGXを加速する地域資源活用新産業創出プラットフォームの整備」を事例として～」  
野田玲治氏（群馬大学）

- (5) 「製鉄業におけるバイオマス利用の取り組み」  
鷹觜利公氏（産総研）

4. 見学会（12/20）第20回バイオマス科学会議と合同

- ・えねるみくす特集記事

2024年3月号 「第19回バイオマス科学会議パネル討論会 バイオマス利用によるサーキュラーエコノミー（経済循環）および地域への波及効果」掲載

- ・「バイオマスの科学と技術 - 未来を創るエネルギー -」コロナ社（7/17出版）
- ・第20回バイオマス科学会議 第1回現地実行委員会（5/15 京都大学）
- ・バイオマス部会幹事会（8/7於 早稲田大学 早稲田キャンパス 14号館101）
- ・第20回バイオマス科学会議 第2回実行委員会（10/23 オンライン）

## (6) 新エネルギー・水素部会

- ・宮崎地区再生可能エネルギー施設見学会（5/24 西部支部との共催）

訪問先：宮崎大学：太陽光集光設備，串間ウィンドヒル：風力発電所見学

- ・えねるみくす連載講座「水素エネルギー利用技術」1月号～11月号掲載
- ・新エネルギー・水素部会 幹事会2回（8/7 早稲田大学、メール開催）
  - 2024年度部会運営について（8/7）
  - 部会主催講演会について（8/7）
  - 機関誌えねるみくすの連載講座企画（8/7、メール開催）
  - 新エネルギー・水素部会シンポジウムについて（メール開催）
  - その他（編集委員交代、出版企画等）（8/7、メール開催）
- ・出版企画会議「水素の科学と技術（仮）」（11/7 オンライン開催）

## (7) 環境リサイクル部会

- ・2024年度RGB（リサイクル、ガス化、バイオマス）シンポジウム ※旧三部会シンポジウム

～GX実現に向けたエネルギー・環境分野の革新的技術～

(6/6 開催 於 東京大学弥生キャンパス フードサイエンス棟中島董一郎記念ホール

参加者：41名)

<講演>

1. 副生成物を有効活用した物質・エネルギー循環型レブリン酸製造プロセスの開発持続可能社会における水素の役割 伏見千尋 (東京農工大学)
2. LNG 未利用冷熱を活用する DAC 技術 “Cryo-DAC (クライオダック)” の研究開発 則永行庸 (名古屋大学)
3. 環境適合性と経済性を両立する新たなマルチ製造プロセスの実用化 北川尚美 (東北大学)

・機関誌えねるみくす特集企画 (7月号)

環境リサイクル部会への集い (新部会発足の概要)、環境リサイクル部会発足と取り巻く環境 (座談会)、環境リサイクル分野での国の動向について、廃プラスチックケミカルリサイクルの動向と期待、循環経済に関する現状と今後の課題について (インタビュー記事)

・第33回日本エネルギー学会大会 (8/7)

基調講演：「日本におけるサーキュラーエコノミーの現状と今後の展望」 梅田靖 (東大)

・幹事会

第1回 (3/1 Web 開催)

- 新部会の役割分担の確認、2024年度RGBシンポジウムについて

第2回 (8/8 W 於 早稲田大学 早稲田キャンパス 国際会議場共同研究室6)

- 2024年度今後の企画について

・出版企画「持続可能な社会におけるプラスチックの使い方 (仮)」に関する打合せ (10/6)

## (8) 燃焼部会

・2024年度企業見学会 (3/7 開催 参加者 26名)

訪問先：矢崎工業株式会社 愛宕採掘場・乙女坂工場

内容：鉱山、石灰焼成施設見学、意見交換会

・「燃焼に関する講習会」～エネルギー管理士 (熱分野) への第一歩～

(6/21 対面講義於 日本大学理工学部駿河台校舎、及びオンデマンド配信)

(6/24～8/3：オンデマンド配信) (受講者：28名)

【講習会】

1. 「熱力学の基礎」 飯島 晃良 (日本大学)

2. 「流体力学の基礎」 秋元 雅翔 (日本大学)

3. 「計測と自動制御」 神原 信志 (岐阜大学)

4. 「伝熱工学の基礎」 奥村 幸彦 (香川大学)

5. 「燃料と燃焼」 奥村 幸彦 (香川大学)

・年次大会 燃焼・熱利用分野基調講演 (8/8 早稲田大学 会場5)

テーマ：「火力発電分野における三菱重工のカーボンニュートラル戦略」

齊藤 圭司郎 (三菱重工業)

・燃焼部会 幹事会 (8/8 於早稲田大学 早稲田キャンパス 国際会議場第三会議室)

- 2024年度部会活動報告

- 2025年度計画審議 (新委員、講習会、見学会、次世代育成 他)

## (9) 液体微粒化部会

・第18回微粒化セミナー (日本液体微粒化学会と共同主催)

(11/8：東京都立産業技術研究センター 東京イノベーションハブ (参加者：10名))

【解説】液体微粒化の基礎/測定法と評価法

講師 豊橋技術科学大学・鈴木 孝司／芝浦工業大学 齊藤 寛泰

【解説・実演】噴霧ノズルの説明と噴霧実演

講師 (株) いけうち 椎葉 竜次

【紹介】東京都立産業技術研究センターにおける産業支援の紹介

講師 東京都立産業技術研究センター

【計測原理の説明と実演】

干渉画像法 (ILIDS) , 位相ドップラ法 (PDI) , レーザー回折法 (LDSA) , 高速度ビデオ

日本カノマックス(株), 西華デジタルイメージ(株), マイクロトラック・ベル(株), (株)フォトロン

【トピックス1】ディーゼル機関の燃料インジェクター内キャビテーション流れ

講師 神戸大学 宗 明良

【トピックス2】詳細 CFD 解析を用いた微粒化モデリング研究と航空エンジン燃焼機器解析への適用

講師 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構 南部 太介

【全体質疑】

講師 天谷 賢児, 鈴木 孝司, 徳岡 直静, 斎藤 寛泰

・第 33 回微粒化シンポジウム Thirty-third Symposium (ILASS-Japan) on Atomization

(日本液体微粒化学会 (ILASS-Japan) と共同主催)

(12/17-18 於 広島国際会議場)

【招待講演】

「Ongoing works to clarify the effect of bubble on flash boiling spray : theory, test-rig, and optical investigations」 Prof. Hyunchang Lee (Kyungnam University, KOREA)

【特別講演】

「エンジン燃料噴霧の蒸発と混合気形成, 燃焼 - 光学計測, 現象理解 -」

西田恵哉 (広島大学名誉教授)

【研究発表】口頭発表 : 37 件 / 10 セッション

・幹事会 4 回 (5/31 Web 開催, 10/1 Web 開催, 10/25 Web 開催, 12/23 Web 開催)

- 本年度部会行事について (5/31)

- 微粒化セミナー開催計画および準備状況確認 (5/31, 10/1, 10/25)

- 微粒化セミナー実施結果について, 2022 年度実績および 2023 年度計画について (12/23)

- 液体微粒化学会の液体微粒化部会合流について (5/31, 10/20, 10/25, 12/23)

- えねるみくす記事協力について (5/31, 10/25)

## (10) 省エネルギー・消費者行動 (EECB) 部会

・2024 年度 春の勉強会 (4/25 開催 参加者 19 名) ※「エネルギー学」部会共催

訪問先 : UR まちとくらしのミュージアム

内 容 : ミュージアム見学 (集合住宅の歴史とまちづくりの過去・現在・未来を体験) および意見交換

・2024 年度 秋の勉強会(10/23 開催 参加者 13 名)

訪問先 : 東洋ライス株式会社サイタマ工場 (10/23 開催)

内 容 : 工場見学 (環境に配慮した精米技術と品質管理、循環型農業への取り組み) および意見交換

・EECB 部会総会(8/7 於早稲田大学 早稲田キャンパス)

内 容 : 部会の活動内容および部会勉強会の紹介

・省エネルギー・消費者行動部会幹事会 (4 回開催, 4/25, 8/7, 10/23, 12/19)

第 1 回 (4/25 於 UR まちとくらしのミュージアム地下 1 階セミナールーム)

- 2024 年度「えねるみくす」特集 (5 月号, 7 月号) 進捗確認, 2025 年度特集号の企画

- 秋の勉強会

- 年次大会基調講演と総会について

- 第2回 (8/7 於早稲田大学 早稲田キャンパス)
  - 2025年度「えねるみくす」特集号の検討、今後の部会勉強会の検討
- 第3回 (10/23 於東洋ライス株式会社サイタマ工場)
  - 「えねるみくす」EECB部会特集号(5月号)の記事企画、次年度春の勉強会企画
- 第4回 (12/19 於株式会社住環境計画研究所会議室)
  - 春のイベント企画、「えねるみくす」特集号に向けた省エネ大賞記事選定
- ・日エネ学会機関誌「えねるみくす」における特集企画掲載 2回
  - 103巻(2024)3号: 省エネ大賞に見る省エネ技術の最新動向
  - 103巻(2024)4号: イー・イー・シー・ビー (EECB) ライブレポート 2024  
(執筆者: 貝増匡俊、岸田真一)

#### (11) 「エネルギー学」部会

- ・エネルギー政策分科会 見学会
  - 開催日 : 2024年9月17日
  - 参加者数 : 20名
  - 訪問先 : 山梨県米倉山 次世代エネルギーシステム研究開発ビレッジ (Nesrad) ・電力貯蔵技術研究サイトおよび山梨県企業局中小水力発電所
- ・EECB部会・「エネルギー学」部会共催 春の勉強会
  - 開催日 : 2024年4月25日 於 UR町とくらしのミュージアム (赤羽)
  - ※詳細はEECB部会に記載
- ・年次大会 特別講演(8/7 早稲田大学)
  - 演題: 「我が国のCCS政策について」
  - 講演者: 経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部 燃料環境適合利用推進課 (カーボンマネジメント課) CCS政策室長 慶野吉則氏
- ・出版企画「持続可能な社会のためのエネルギーの事典(仮題)」部会長を中心に取りまとめ
- ・「エネルギー学」部会 第11回総会 (8/8 早稲田大学)
- ・「エネルギー学」部会 運営委員会 (4回)
  - 第1回 (3/11 於 電力中央研究所大手町会議室およびWeb開催)
    - 今後の企画案および第33回日本エネルギー学会大会の講演者案について
  - 第2回 (5/9 Web開催)
    - 2024年体制、2024年度部会行事(シンポジウム、セミナー等)、学会誌特集記事、他
  - 第3回 (8/8 於 早稲田大学国際会議場 第三会議室)
    - 2024年体制、今後の部会企画、学会機関紙への特集企画、出版企画等について、他
  - 第4回 (12/25 Web開催)
    - 2024年体制、今後の部会企画、学会機関紙への特集企画、出版企画等について、他

#### (12) 若手研究者の勉強会

- ・特記事項無し

### 1-4 支部関連

#### (1) 北海道支部

- ・2024年度 企業施設見学会
  - a. 石狩LNG基地・石狩発電所および藻岩発電所リプレース工事現場見学
    - 開催日 2024年11月12日(火) 09:30 ~ 16:15 (参加19名)
    - 開催場所 石狩発電所: 石狩市新港中央、藻岩発電所: 札幌市南区
    - 開催企業 北海道ガス株式会社、北海道電力株式会社
  - b. 新さっぽろエネルギーセンターおよび勇払油ガス田・LNGプラント見学
    - 開催日 2024年11月19日(火) 09:30 ~ 16:35 (参加20名)
    - 開催場所 エネルギーセンター: 札幌市厚別区厚別中央、勇払油ガス田: 苫小牧市沼ノ端
    - 開催企業 北海道ガス株式会社、石油資源開発株式会社
- ・幹事会・総会開催 (1/23開催)

- 場所：かでの 2.7 902 号会議室（札幌市 道民活動センタービル）
- 2023 年度活動報告および決算報告、2024 年度活動計画および予算
- ・庶務幹事会（4 回 3/25、5/22、7/9、9/5、11/14）
  - 第 1 回（書面開催）
    - 2024 年度事業計画について
  - 第 2 回（Web 開催）
    - 研究・技術の振興および支部に対する学術機関の関与強化について
    - 日本化学会北海道支部主催「夏季研究発表会」共済金に関する覚書合意について
  - 第 3 回（Web 開催）
    - 企業見学会訪問先、案内方法について
    - 今年度の講演会・講習会の開催について
  - 第 4 回（於 北海道大学エネルギー・マテリアル融合領域研究センター Wb204）
    - 研究・技術の振興および支部に対する学術機関への関与強化について
  - 第 5 回（於 石油資源開発(株)北海道事業所）
    - 北海道支部幹事会・総会について
    - 今後の支部の在り方について
- ・共催・協賛行事
  - 日本化学会北海道支部「2024 年度夏季研究発表会」（7/20：共催）
  - 北海道大学第 13 回エネルギー・マテリアル融合領域シンポジウム（11/5：協賛）

## (2) 東北支部

- ・日本エネルギー学会 東北支部 2024 年度講演会・見学会（8/27, 28）
  - 主催：日本エネルギー学会東北支部、新潟大学カーボンニュートラル融合技術研究センター
  - 【講演会（8/27）】 於 新潟大学駅南キャンパスときめいと（参加者 45 名）
    1. メタン直接分解によるターコイズ水素製造技術  
鈴木正史（あいち産業科学技術総合センター）
    2. 新潟県柏崎市でのブルー水素・アンモニア製造・利用一貫実証試験の概要について  
古座野洋志（株式会社 INPEX）
    3. 太陽光発電システムの多様な設置方法と電力ネットワークの親和性  
伊藤雅一（福井大学）
    4. グリーン水素製造のためのアニオン交換膜型水電解における材料およびシステムの設計  
山口猛央（東京工業大学）
  - 【見学会（8/28）】
    - 訪問先 三菱ガス化学（株）新潟工場、東北電力（株）東新潟火力発電所 見学
    - ⇒台風 10 号により中止
- ・2023 年度役員会 3 回（臨時役員会を含む）
- ・共催・協賛・後援行事
  - 火力原子力発電技術協会東北支部 2023 年度技術講演会・見学会（2/20, 21：仙台市（ハイブリッド）、参加者 講演会 128 名、見学会 18 名）（協賛）
  - 第 2 回カーボンニュートラル次世代人材育成セミナー（3/4：新潟市（ハイブリッド）、参加者 80 名）（後援）
  - 学都 仙台・宮城サイエンスデイ（7/14：仙台市、参加者 10,708 名）（後援）
  - 2024 年度第 1 回カーボンニュートラル融合技術研究センター研究会（8/27：新潟市、参加者 45 名）（共催）
  - 化学工学会東北支部 第 29 回東北ジョイント夏季セミナー（9/3：南相馬市、参加者 29 名）（協賛）
  - 秋田化学工学懇話会第 57 回ケミカルエンジニアリング交流会・第 21 回石炭化学コロキウム

(11/7：秋田市) (協賛)

- 火力原子力発電技術協会東北支部 2024 年度技術講習会および見学会 (協賛)
- 第 15 回製鉄・資源に関する Workshop (還元研究会) (12/16, 17) (共催)

### (3) 関西支部

- ・第 40 回 関西支部セミナー ～水素社会への道～

(石油学会関西支部共催) (10/25 大阪大学中之島センター) (参加者：37 名)

#### 【講演】

1. 工業分野での大型水素製造プロセスの現状と水素社会に向けた展開  
静岡大学 工学部化学バイオ工学科 教授 福原長寿
2. 神戸製鋼所における工場での水素製造・供給・利活用に向けた取り組み  
(株) 神戸製鋼所 技術開発本部 機械研究所 資源プロセス研究室 兼 化学技術研究室  
主任研究員 藤澤彰利
3. 燃料電池システムの先端研究と多様な製品開発の加速を目指した統合システムシミュレーター  
「FC-DynaMo」の開発 京都大学特定助教・トヨタ自動車(株) 長谷川茂樹
4. カーボンニュートラルの達成に向けた水素・アンモニア焚きガスタービンの取り組み  
三菱重工業(株) エナジードメイン GTCC 事業部 ガスタービン技術部長 羽田 哲

- ・関西支部第 69 回研究発表会 (石油学会関西支部共催)

(12/13 京都大学桂キャンパス)

【研究発表】口頭発表：9 件、ポスター発表：18 件

#### 【講演】

1. 鉄の将来性と日本製鉄の取り組み 日本製鉄株式会社 瀬戸内製鉄所 猪狩直登
2. Vision 203X エネルギー革命後の化学プラント 京都大学大学院 工学研究科 河瀬元明

- ・コロキウム 2024 (8/30 ダイセル 姫路製造所 網干工場) ⇒台風接近のため中止

#### 【講演】

1. 合金を利用した表面反応場の精密設計～新規触媒の開発・工業触媒の解明～  
中谷勇希 (大阪大学)

【見学会】訪問先:三菱重工(株)高砂製作所 水素パーク

- ・幹事会 4 回 (1/30：大阪工業大学梅田キャンパス、4/19：アーバネックス備後町ビル、8/10：  
神戸製鋼所高砂製作所、10/19：オンライン)

第 1 回 (2/9 於 アーバネックス備後町ビル A 会議室)

- 2023 年度支部活動、会計報告
- 2024 年度支部人事、2024 年度予算案、2024 年度支部活動計画

第 2 回 (5/15 Web 開催)

- 2024 年度支部活動について

第 3 回 (9/12 於三菱重工(株)高砂製作所)

- 2024 年度支部活動について

第 4 回 (10/25 於大阪大学中之島センター)

- 2024 年度支部活動、2024 年度会計見込み、2025 年度予算案

### (4) 西部支部

- ・第 23 回九州低炭素システム研究会セミナー(7/3) 於 AIMビル 3F 会議室(参加者:70 名)

主催：九州経済産業局、九州大学、日本エネルギー学会 西部支部、新エネルギー・水素部会

#### 【講演】

1. 低炭素社会と蓄電池 ～リチウムイオン電池の現状と今後～ 栄部比夏里 (九州大学)
2. カーボンニュートラル化を目指したタイヤ資源循環への取り組み  
北條将広 (株式会社ブリヂストン)

- 3. カーボンニュートラルに向けた太平洋セメントの取り組み ～カーボンニュートラル戦略と革新技術の開発状況～ 吉川知久（太平洋セメント株式会社）
- 4. カーボンニュートラルの推進に向けて吉川知久（太平洋セメント株式会社）
- ・第6回エネルギー技術講演会『二酸化炭素回収技術の進歩』（9/4）  
TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前（参加者：35名）
- 【講演】
  - 1. 二酸化炭素分離回収技術とその動向 齊間等（広島大学）
  - 2. セラミック膜による二酸化炭素の分離回収、およびCNへの応用 菅博史（日本ガイシ）
  - 3. 川崎重工業の固体吸収材を用いたCO<sub>2</sub>分離回収技術の開発 西部祥平（川崎重工業）
  - 4. アミン含有ゲル粒子による二酸化炭素の回収 星野友（九州大学）
  - 5. 冷熱を用いた大気中からの二酸化炭素回収 則永行庸（名古屋大学）
- ・第8回 学生・若手研究発表会（11/15 於 広島市東区民文化センター 参加者：30名）  
口頭発表：8件，ポスター発表：6件，特別講演（島根大学・小俣副学長）
- ・西部支部役員会（2回）
  - 第1回（6/25 於 博多・貸会議室およびWeb開催）
    - 支部長挨拶、幹事名簿確認、2023年度支部活動実績および2024年度支部活動計画
  - 第2回（11/15 於 広島市東区民文化センターおよびWeb開催）
    - 2024年度支部活動実績と2025年度活動計画

#### 1-5 受託調査関連

No.	テーマ名	委託元	期間	委員長
1	日本 IEA 燃焼研究－燃焼に関する省エネルギーと排出物低減	IEA 研究会維持会員	2024.6－2025.5	石間 経章 (群馬大学)

## 2. 会員状況報告

		2023 年度末数	増 (+)	減 (-)	2024 年度末数
維持 会 員	特級	3	0	0	3
	1 級	2	0	0	2
	2 級	2	0	0	2
	3 級	7	0	1	6
	4 級	18	0	0	18
	5 級	78	1	2	77
小 計		110	1	3	108
名誉会員		17	0	1	16
正 会 員		1,043	97	117	1,023
小 計		1,060	97	118	1,039
賛助会員		86	1	0	87
合 計		1,256	99	121	1,234

### 《ご参考》

正会員におけるシニア会員・学生会員の構成比率（小数点以下四捨五入）

2020 年度末 会員数 1,163 名	シニア会員 210 名 (18%)	学生会員 120 名 (10%)
2021 年度末 会員数 1,133 名	シニア会員 211 名 (19%)	学生会員 119 名 (11%)
2022 年度末 会員数 1,097 名	シニア会員 204 名 (19%)	学生会員 131 名 (12%)
2023 年度末 会員数 1,043 名	シニア会員 206 名 (20%)	学生会員 111 名 (11%)
2024 年度末 会員数 1,023 名	シニア会員 198 名 (19%)	学生会員 126 名 (12%)

### 2024 年度事業報告 附属明細書

2024年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。



第2号議案 2024年1月1日から2024年12月31日までの貸借対照表、  
正味財産増減計算書、財産目録の承認の件

貸借対照表

2024年12月31日現在

一般社団法人日本エネルギー学会

科 目	(A)	(B)	(A-B) (単位：円)
	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	34,167,572	37,969,410	△ 3,801,838
売掛金	108,930	330,113	△ 221,183
未収金	1,633,800	1,309,624	324,176
前払金	388,080	388,080	0
棚卸資産	3,077,916	3,412,390	△ 334,474
立替金	44,958	7,708	37,250
流動資産合計	39,421,256	43,417,325	△ 3,996,069
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産引預金	200,000	200,000	0
基本財産合計	200,000	200,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引預金	439,000	5,045,800	△ 4,606,800
会費補填引預金	9,500,000	9,500,000	0
特定資産合計	9,939,000	14,545,800	△ 4,606,800
(3) その他固定資産			
電話加入権	30,550	30,550	0
借室保証金	3,488,000	3,488,000	0
その他固定資産合計	3,518,550	3,518,550	0
固定資産合計	13,657,550	18,264,350	△ 4,606,800
資産合計	53,078,806	61,681,675	△ 8,602,869
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0	△ 33,177	33,177
預り金	235,519	366,323	△ 130,804
仮受金	1,628	1,749	△ 121
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	715,600	730,791	△ 15,191
流動負債合計	1,022,747	1,135,686	△ 112,939
2. 固定負債			
退職給付引当金	439,000	5,045,800	△ 4,606,800
固定負債合計	439,000	5,045,800	△ 4,606,800
負債合計	1,461,747	6,181,486	△ 4,719,739
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	200,000	200,000	0
(うち特定資産への充当額)	9,939,000	14,545,800	△ 4,606,800
正味財産合計	51,617,059	55,500,189	△ 3,883,130
負債及び正味財産合計	53,078,806	61,681,675	△ 8,602,869

## 附 属 明 細 書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表の注記において記載をしている。

### 2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
退職給付 引当金	5,045,800	439,000	5,045,800	0	439,000

# 正味財産増減計算書

2024年 1月 1日から2024年12月31日まで

一般社団法人日本エネルギー学会

科 目	(A)	(B)	(A-B) (単位:円)
	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	29,773,208	30,380,500	△ 607,292
維持会員受取会費	20,900,000	21,300,000	△ 400,000
賛助会員受取会費	1,844,000	1,784,000	60,000
正会員受取会費	7,029,208	7,296,500	△ 267,292
事業収益	16,460,161	18,317,024	△ 1,856,863
講演講習会収益	9,955,223	9,778,143	177,080
分析収益	166,980	149,050	17,930
安息香酸収益	2,077,680	2,356,200	△ 278,520
調査研究収益	1,100,000	1,100,000	0
会誌別刷売上	52,380	64,952	△ 12,572
広告収益	585,240	1,754,286	△ 1,169,046
書籍収益	609,432	1,077,545	△ 468,113
支部収益	1,400,000	1,400,000	0
会誌掲載料	513,226	636,848	△ 123,622
広告収益	0	30,000	△ 30,000
雑収益	506,482	16,107	490,375
受取利息	3,174	516	2,658
雑収益	503,308	15,591	487,717
経常収益計	46,739,851	48,743,631	△ 2,003,780
(2) 経常費用			
事業費	34,009,758	37,142,725	△ 3,132,967
給料手当	8,380,733	9,350,921	△ 970,188
講演講習会運営費	4,946,648	4,642,530	304,118
旅費交通費	1,354,771	2,964,638	△ 1,609,867
通信運搬費	539,050	659,093	△ 120,043
消耗品費	26,151	33,807	△ 7,656
印刷製本費	7,871,497	7,913,854	△ 42,357
支部費	1,400,000	1,400,000	0
広告宣伝費	0	6,008	△ 6,008
借室費	3,222,912	3,222,912	0
保険料	0	17,775	△ 17,775
会議費	250,735	113,456	137,279
諸謝金	1,589,995	1,952,049	△ 362,054
租税公課	0	450	△ 450
分析費	125,235	111,786	13,449
支払寄付金	372,751	0	372,751
安息香酸費	1,662,144	1,884,960	△ 222,816
委託費	66,674	66,632	42
雑費	2,090,634	2,693,406	△ 602,772
出入金手数料	109,828	108,448	1,380
管理費	21,476,879	15,195,507	6,281,372
給料手当	3,591,743	4,007,537	△ 415,794
派遣手数料	726,365	0	726,365
社会保険料	1,526,297	1,751,777	△ 225,480
退職給付費用	439,000	445,000	△ 6,000
労働保険料	223,610	245,774	△ 22,164
福利厚生費	38,861	26,862	11,999
退職金	5,520,960	0	5,520,960
会議費	1,121,114	1,144,119	△ 23,005
旅費交通費	1,389,655	1,255,700	133,955
通信運搬費	818,492	848,409	△ 29,917
消耗品費	40,527	68,375	△ 27,848
印刷製本費	426,976	532,365	△ 105,389
光熱水料費	351,555	364,021	△ 12,466
借室費	1,381,248	1,381,248	0
保険料	7,110	7,110	0
諸謝金	89,096	30,000	59,096
租税公課	539,069	814,081	△ 275,012
雑費	3,245,201	2,273,129	972,072
出入金手数料	57,739	55,726	2,013
経常費用計	55,544,376	52,393,958	3,150,418
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,804,525	△ 3,650,327	△ 5,154,198
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 8,804,525	△ 3,650,327	△ 5,154,198
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
過年度損益修正益	5,783	402,187	△ 396,404
退職給付引当金取崩益	5,045,800	0	5,045,800

科 目	当年度	前年度	増 減
経常外収益計	5,051,583	402,187	4,649,396
(2) 経常外費用			
過年度損益修正損	130,188	0	130,188
経常外費用計	130,188	0	130,188
当期経常外増減額	4,921,395	402,187	4,519,208
当期一般正味財産増減額	△ 3,883,130	△ 3,248,140	△ 634,990
一般正味財産期首残高	55,500,189	58,748,329	△ 3,248,140
一般正味財産期末残高	51,617,059	55,500,189	△ 3,883,130
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	51,617,059	55,500,189	△ 3,883,130

# 正味財産増減計算書内訳表

2024年 1月 1日から2024年12月31日まで

一般社団法人日本エネルギー学会

(単位：円)

科 目	実施事業会計		その他事業会計				法人会計	合計
	会誌発行	表彰事業	講演講習会	依頼分析	調査研究	書籍	法人会計	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
受取会費	0	0	7,443,302	223,299	0	1,116,495	20,990,112	29,773,208
維持会員受取会費	0	0	5,225,000	156,750	0	783,750	14,734,500	20,900,000
賛助会員受取会費	0	0	461,000	13,830	0	69,150	1,300,020	1,844,000
正会員受取会費	0	0	1,757,302	52,719	0	263,595	4,955,592	7,029,208
事業収益	1,120,846	0	11,412,943	2,244,660	1,100,000	581,712	0	16,460,161
講演講習会収益	0	0	9,955,223	0	0	0	0	9,955,223
分析収益	0	0	0	166,980	0	0	0	166,980
安息香酸収益	0	0	0	2,077,680	0	0	0	2,077,680
調査研究収益	0	0	0	0	1,100,000	0	0	1,100,000
会誌別刷売上	52,380	0	0	0	0	0	0	52,380
広告収益	555,240	0	30,000	0	0	0	0	585,240
書籍収益	0	0	27,720	0	0	581,712	0	609,432
支部収益	0	0	1,400,000	0	0	0	0	1,400,000
会誌掲載料	513,226	0	0	0	0	0	0	513,226
雑収益	3,308	0	492	0	0	0	502,682	506,482
受取利息	0	0	492	0	0	0	2,682	3,174
雑収益	3,308	0	0	0	0	0	500,000	503,308
経常収益計	1,124,154	0	18,856,737	2,467,959	1,100,000	1,698,207	21,492,794	46,739,851
(2) 経常費用								
事業費	11,188,487	1,891,543	14,062,685	2,621,580	3,401,658	843,805	0	34,009,758
給料手当	1,197,248	598,624	3,591,743	598,624	1,795,871	598,623	0	8,380,733
講演講習会運営費	0	0	4,946,648	0	0	0	0	4,946,648
旅費交通費	0	198,536	1,075,305	0	80,930	0	0	1,354,771
通信運搬費	471,857	23,318	41,840	0	2,035	0	0	539,050
消耗品費	0	0	24,412	1,739	0	0	0	26,151
印刷製本費	7,723,749	168	132,606	0	0	14,974	0	7,871,497
支部費	0	0	1,400,000	0	0	0	0	1,400,000
借室費	460,416	230,208	1,381,248	230,208	690,624	230,208	0	3,222,912
会議費	0	0	250,735	0	0	0	0	250,735
諸謝金	812,000	0	777,995	0	0	0	0	1,589,995
分析費	0	0	0	125,235	0	0	0	125,235
支払寄付金	0	372,751	0	0	0	0	0	372,751
安息香酸費	0	0	0	1,662,144	0	0	0	1,662,144
委託費	66,674	0	0	0	0	0	0	66,674
雑費	409,870	461,800	394,690	0	824,274	0	0	2,090,634
出入金手数料	46,673	6,138	45,463	3,630	7,924	0	0	109,828
管理費	0	0	0	0	0	0	21,476,879	21,476,879
給料手当	0	0	0	0	0	0	3,591,743	3,591,743
派遣手数料	0	0	0	0	0	0	726,365	726,365
社会保険料	0	0	0	0	0	0	1,526,297	1,526,297
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	439,000	439,000
労働保険料	0	0	0	0	0	0	223,610	223,610
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	38,861	38,861
退職金	0	0	0	0	0	0	5,520,960	5,520,960
会議費	0	0	0	0	0	0	1,121,114	1,121,114
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	1,389,655	1,389,655
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	818,492	818,492
消耗品費	0	0	0	0	0	0	40,527	40,527
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	426,976	426,976
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	351,555	351,555
借室費	0	0	0	0	0	0	1,381,248	1,381,248
保険料	0	0	0	0	0	0	7,110	7,110
諸謝金	0	0	0	0	0	0	89,096	89,096
租税公課	0	0	0	0	0	0	539,069	539,069
雑費	0	0	0	0	0	0	3,245,201	3,245,201
出入金手数料	0	0	0	0	0	0	57,739	57,739
経常費用計	11,188,487	1,891,543	14,062,685	2,621,580	3,401,658	843,805	21,534,618	55,544,376
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 10,064,333	△ 1,891,543	4,794,052	△ 153,621	△ 2,301,658	854,402	△ 41,824	△ 8,804,525
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 10,064,333	△ 1,891,543	4,794,052	△ 153,621	△ 2,301,658	854,402	△ 41,824	△ 8,804,525
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
過年度損益修正益	0	0	5,783	0	0	0	0	5,783
退職給付引当金取崩益	0	0	0	0	0	0	5,045,800	5,045,800
経常外収益計	0	0	5,783	0	0	0	5,045,800	5,051,583
(2) 経常外費用								
過年度損益修正損	0	0	0	0	130,188	0	0	130,188
経常外費用計	0	0	0	0	130,188	0	0	130,188
当期経常外増減額	0	0	5,783	0	△ 130,188	0	5,045,800	4,921,395
当期一般正味財産増減額	△ 10,064,333	△ 1,891,543	4,799,835	△ 153,621	△ 2,431,846	854,402	5,003,976	△ 3,883,130
一般正味財産期首残高	△ 181,590,906	△ 17,510,087	70,091,543	4,379,159	△ 16,173,572	17,221,097	179,082,955	55,500,189
一般正味財産期末残高	△ 191,655,239	△ 19,401,630	74,891,378	4,225,538	△ 18,605,418	18,075,499	184,086,931	51,617,059
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 191,655,239	△ 19,401,630	74,891,378	4,225,538	△ 18,605,418	18,075,499	184,086,931	51,617,059

# 財産目録

2024年12月31日現在

一般社団法人日本エネルギー学会

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>				
	現金	手元保管	運転資金として	173,601
	預金	普通預金		10,909,891
		三菱UFJ銀行1772623		3,848,761
		三井住友銀行7469252		3,724,110
		三菱UFJ銀行1772610		642
		三菱UFJ銀行2129006		1,950,355
		三菱UFJ銀行2129077		1,386,023
		振替預金		6,099,495
		支部現金預金		6,961,121
		関西支部勘定		3,138,018
		西部支部勘定		1,689,983
		北海道支部勘定		1,005,151
		東北支部勘定		1,127,969
	定期預金	10,023,464		
	三井住友銀行1380004	10,023,464		
	売掛金		108,930	
	未収金		1,633,800	
	前払金		388,080	
	棚卸資産		3,077,916	
	立替金		44,958	
<b>流動資産合計</b>				<b>39,421,256</b>
<b>(固定資産)</b>				
基本財産	基本財産引預金	(定期)三菱UFJ銀行		200,000
特定資産	退職給付引預金	(普通)三菱UFJ銀行		439,000
	会費補填引預金	(定期)三菱UFJ銀行		9,500,000
その他固定資産	電話加入権			30,550
	借室保証金			3,488,000
<b>固定資産合計</b>				<b>13,657,550</b>
<b>資産合計</b>				<b>53,078,806</b>
<b>(流動負債)</b>				
	預り金			235,519
	給与等源泉徴収			209,183
	諸謝金源泉徴収			26,336
	仮受金			1,628
	未払法人税等			70,000
	未払消費税等			715,600
<b>流動負債合計</b>				<b>1,022,747</b>
<b>(固定負債)</b>				
	退職給付引当金			439,000
<b>固定負債合計</b>				<b>439,000</b>
<b>負債合計</b>				<b>1,461,747</b>
<b>正味財産</b>				<b>51,617,059</b>

# 予算対比正味財産増減計算書

2024年 1月 1日から2024年12月31日まで

一般社団法人日本エネルギー学会

	(A)	(B)	(A-B) (単位:円)
科 目	予算額	決算額	差 異
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	30,707,800	29,773,208	934,592
維持会員受取会費	21,300,000	20,900,000	400,000
賛助会員受取会費	1,720,000	1,844,000	△ 124,000
正会員受取会費	7,687,800	7,029,208	658,592
事業収益	21,710,000	16,460,161	5,249,839
講演講習会収益	13,500,000	9,955,223	3,544,777
分析収益	1,100,000	166,980	933,020
安息香酸収益	2,900,000	2,077,680	822,320
調査研究収益	1,100,000	1,100,000	0
会誌別刷売上	70,000	52,380	17,620
広告収益	530,000	585,240	△ 55,240
書籍収益	380,000	609,432	△ 229,432
支部収益	1,400,000	1,400,000	0
会誌掲載料	730,000	513,226	216,774
雑収益	519,500	506,482	13,018
受取利息	500	3,174	△ 2,674
雑収益	519,000	503,308	15,692
経常収益計	52,937,300	46,739,851	6,197,449
(2) 経常費用			
事業費	25,048,000	34,009,758	△ 8,961,758
給料手当	0	8,380,733	△ 8,380,733
講演講習会運営費	4,700,000	4,946,648	△ 246,648
旅費交通費	2,500,000	1,354,771	1,145,229
通信運搬費	690,000	539,050	150,950
消耗品費	33,000	26,151	6,849
印刷製本費	7,640,000	7,871,497	△ 231,497
支部費	1,400,000	1,400,000	0
広告宣伝費	6,000	0	6,000
借室費	0	3,222,912	△ 3,222,912
会議費	110,000	250,735	△ 140,735
諸謝金	2,020,000	1,589,995	430,005
分析費	825,000	125,235	699,765
支払寄付金	0	372,751	△ 372,751
安息香酸費	2,320,000	1,662,144	657,856
委託費	0	66,674	△ 66,674
雑費	2,695,000	2,090,634	604,366
出入金手数料	109,000	109,828	△ 828
管理費	27,823,800	21,476,879	6,346,921
給料手当	12,500,000	3,591,743	8,908,257
派遣手数料	0	726,365	△ 726,365
社会保険料	1,750,000	1,526,297	223,703
退職給付費用	1,196,800	439,000	757,800
労働保険料	250,000	223,610	26,390
福利厚生費	30,000	38,861	△ 8,861
退職金	0	5,520,960	△ 5,520,960
会議費	1,200,000	1,121,114	78,886
旅費交通費	1,260,000	1,389,655	△ 129,655
通信運搬費	850,000	818,492	31,508
消耗品費	70,000	40,527	29,473
印刷製本費	550,000	426,976	123,024
光熱水料費	370,000	351,555	18,445
借室費	4,600,000	1,381,248	3,218,752
保険料	7,000	7,110	△ 110
諸謝金	70,000	89,096	△ 19,096
租税公課	820,000	539,069	280,931
雑費	2,300,000	3,245,201	△ 945,201
出入金手数料	60,000	57,739	2,261
経常費用計	52,931,800	55,544,376	△ 2,612,576
評価損益等調整前当期経常増減額	5,500	△ 8,804,525	8,810,025
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,500	△ 8,804,525	8,810,025

科 目	予算額	決算額	差 異
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
過年度損益修正益	0	5,783	△ 5,783
退職給付引当金取崩益	0	5,045,800	△ 5,045,800
経常外収益計	0	5,051,583	△ 5,051,583
(2) 経常外費用			
過年度損益修正損	0	130,188	△ 130,188
経常外費用計	0	130,188	△ 130,188
当期経常外増減額	0	4,921,395	△ 4,921,395
当期一般正味財産増減額	5,500	△ 3,883,130	3,888,630
一般正味財産期首残高	55,500,189	55,500,189	0
一般正味財産期末残高	55,505,689	51,617,059	3,888,630
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	55,505,689	51,617,059	3,888,630

※【配賦前の合計】

	(A)	(B)	(A-B) (単位：円)
科 目	予算額	決算額	差 異
給料手当	12,500,000	11,972,476	527,524
借室費	4,600,000	4,604,160	△ 4,160



## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

平成22年12月期から「公益法人会計基準」(平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(1) 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、売掛金、未収金、前払金、棚卸資産、立替金、仮払金、買掛金、未払金、前受金、預り金、仮受金、未払法人税等及び未払消費税等を含めている。

(2) 退職給付引当金

職員の退職給付に備えるため、当事業年度以降において発生すると認められる債務額を計上している。

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

当事業年度末における会誌及び書籍の在庫額を計上している。

(4) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

### 2. 正味財産に含まれる資産及び負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
基本財産	200,000	200,000
電話加入権	30,550	30,550
借室保証金	3,488,000	3,488,000
退職給付引当預金	5,045,800	439,000
会費補填引当預金	9,500,000	9,500,000
合 計	18,264,350	13,657,550
現金預金	37,969,410	34,167,572
売掛金	330,113	108,930
未収金	1,309,624	1,633,800
前払金	388,080	388,080
棚卸資産	3,412,390	3,077,916
立替金	7,708	44,958
仮払金	0	0
合 計	43,417,325	39,421,256
退職給付引当金	5,045,800	439,000
合 計	5,045,800	439,000
買掛金	0	0
未払金	-33,177	0
前受金	0	0
預り金	366,323	235,519
仮受金	1,749	1,628
未払法人税等	70,000	70,000
未払消費税等	730,791	715,600
合 計	1,135,686	1,022,747
正味財産	55,500,189	51,617,059

### 3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本財産引当預金	200,000	0	0	200,000
小計	200,000	0	0	200,000
特定資産				
退職給付引当預金	5,045,800	439,000	5,045,800	439,000
会費補填引当預金	9,500,000	0	0	9,500,000
小計	14,545,800	439,000	5,045,800	9,939,000
合計	14,745,800	439,000	5,045,800	10,139,000

### 4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科目	当期末残高	(うち指定正味 財産からの充当 額)	(うち一般正味 財産からの充当 額)	(うち負債に対 応する額)
基本財産				
基本財産引当預金	200,000	0	200,000	0
小計	200,000	0	200,000	0
特定資産				
退職給付引当預金	439,000	0	5,045,800	0
会費補填引当預金	9,500,000	0	9,500,000	0
小計	9,939,000	0	14,545,800	0
合計	10,139,000	0	14,745,800	0

## 附属明細書

### 1. 基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表の注記において記載をしている。

### 2. 引当金の明細

引当金については、財務諸表の注記において記載をしている。

# 監査報告書

一般社団法人 日本エネルギー学会  
会長 成瀬 一郎 殿

2025年1月21日

監事 白石 裕樹 

監事 早川 宏 

私は、2024年1月1日から2024年12月31日までの2024年会計年度における会計および業務監査を行い、次のとおり報告する。

## 1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査 帳簿および関係書類並びに計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査 理事会およびその他の会議に出席し、理事からの業務報告および関係書類により業務執行の妥当性を検討した。

## 2. 監査意見

- (1) 貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録は、会計帳簿の記載と一致し、法人の収支状況および財政状態を正しく示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は事実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する事実はないと認める。

以上

### 第 3 号議案 2025・2026 年度理事・監事の承認の件

2025・2026 年度の理事および監事の候補者は次の通りです。

なお、本会定款第 20 条、及び理事、監事及び会長の選出に関する規程第 12 条の候補者の公示に関する規程により学会ホームページにて公示を行い、締切日の 2025 年 1 月 9 日（木）までに異議の申し出はありませんでした。

#### (一社) 日本エネルギー学会 2025・2026年度理事および監事候補者氏名

理 事(五十音順)				
青木 秀之	東北大学		関根 泰	早稲田大学
秋澤 淳	東京農工大学		鷹觜 利公	(国研)産業技術総合研究所
天谷 賢児	群馬大学		武内 敬	大阪ガス(株)
池永 直樹	関西大学		成島 栄治	東京電力ホールディングス(株)
上田 巖	(一社)日本エネルギー学会		林 潤一郎	九州大学
岡島 敬一	筑波大学		廣瀬 研志	出光興産(株)
梶谷 史朗	(一財)電力中央研究所		古谷 博秀	(国研)産業技術総合研究所
神原 信志	岐阜大学		森 功	J F E スチール(株)
児玉 竜也	新潟大学		矢加部 久孝	東京ガス(株)
小林 信介	岐阜大学		八木田 浩史	日本工業大学
佐藤 康司	ENEOS(株)	○	山口 幸一	日本製鉄(株)
清水 忠明	新潟大学			
監 事(五十音順)				
大畑 博資	電源開発(株)		白石 裕樹	東芝エネルギーシステムズ(株)

○ 印は会長候補者

#### 第4号議案 2025年度補欠理事選任の承認の件

2025年度の補欠理事として次の候補者を承認願います。

本総会終了後に開催される理事会において、第3号議案で承認された理事 上田巖が専務理事に選任されることを条件に、理事 上田巖の2025年度の補欠理事として次の候補者の選任につき、承認願います。なお、選任された補欠理事は、専務理事が職務を遂行できなくなった場合、理事会の承認を経て、専務理事に就任するものとする。

日本エネルギー学会 高瀬 章弘

なお、本議案は2024年度第6回定例理事会（2025年1月30日）にて承認済

## 第5号議案 2025年度事業計画ならびに収支予算の承認の件

### 2025年度の主たる事業計画

#### 1. 指針

当学会は2022年に創立100周年を迎え、2023年から”2050年カーボンニュートラルに向けたエネルギー・環境問題の解決への貢献”を中心的な社会課題とし、新たに学会内外に向けて若い世代への情報発信をより積極的に行っていく活動方針としている。

昨今は世界的なコロナ禍の影響は収束しつつあるが、さらにロシアのウクライナ侵攻や中東ガザ地区の戦火が加わって、真に持続可能な社会構築に向けて、地球規模の気候変動問題の克服、エネルギー資源の多様化、エネルギー自給率とコスト、安全性などの観点から、より一層の省エネルギーや資源循環を進めながら、化石エネルギー、再生可能エネルギー、原子力などのエネルギーミックスや対応技術を最適化することが日本のエネルギー・環境政策にとって最重要課題である。特に、2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指すことは産学官民が一体となって、電力の非化石化のみならず、運輸・産業界等でもより一層の化石資源使用の低減によって、2050年カーボンニュートラルを実現するロードマップを提示することが必須となっている。

このような情勢の中、エネルギーに関連する各分野において、専門的かつ幅広い情報、人脈を有する当学会は、「環境の時代における化石資源と再生可能エネルギーのそれぞれの役割とそれを支える技術」に関する情報発信が大切である。学会活性化の要諦は部会および支部の活性化が基本であり、会員および社会の要望に対応するために、学会の委員会、部会、支部の活動の更なる活性化と共に積極的な若い世代への情報発信を行い、諸課題の解決に貢献していく。財務・運営タスクフォースの提言に沿って財務を強化しつつ、諸活動をこれまで以上に推進する。

#### 2. 委員会・部会・支部の活動方針および行事計画等

##### (1) 委員会活動方針

委員会	活動方針
企画委員会	① 部会・支部と連携し、活発な学会活動を推進するための方策を検討する。 ② 産・官・学や他学会と連携を図り、2050年カーボンニュートラルや地球環境問題などの課題への対応を検討する。 ③ 会員特典をより使いやすくするため、会員へのサービスの改善を検討する。 ④ 理事会、会員増強委員会と連携し、会員サービスの向上および会員の拡充を推進する。 ⑤ ホームページの充実やメディア対応など積極的な広報活動を推進する。 ⑥ その他、環境変化に対応した学会運営の改善を検討する。
総務委員会	① 一般社団法人に対応したガバナンスの向上(規程の制定や見直し等)を図る。 ② 学会の運営について随時必要な改善を図る。 ③ 規程に沿って、事務局の人事体制を効率化、強化を図る。
財務委員会	① 学会経営の健全性を維持・確認しながら、急速に変化する経営環境下での厳しい財務運営の改善に資する今後の安定的運営策を策定する。 ② 財務・運営タスクフォースのフォローの実施を通じて、財務収支の黒字化を目指す。安定運営に必要な正味財産を確保する。
表彰委員会	① 表彰委員会において、応募件数増に繋がるよう対策を検討する。特に維持会員の新技术が応募対象になるよう周知方法等を検討する。 ② 功績賞、技術部門の候補については応募が広がるように検討する。功績賞については、学会への功績についての基準制定や見える化を行い、幅広く受賞候補者の推薦を行えるようにする。 ③ 必要に応じて表彰規程および表彰規程実施要領を改訂し、選考を適切に実施し、より有意義な表彰を行う。今年度はより適切な選考に資する評価ガイドラインの改善を図る。 ④ 表彰の応募申請・選考関連書類の電子化・ペーパーレス化を推進する。
会員増強委員会	① 会員にとってより魅力ある学会にする為の具体策について理事会、企画委員会と連携して検討し実施する。 ② エネルギー、環境に関連する各種団体、企業等の入会勧誘策を検討して実施する。会員増強を理事・監事の協力のもと具体的に進める。

	③ 他学会の会員減少対応策の情報を収集して理事会で共有し、対策の材料とする。
--	--

委員会	活動方針
編集委員会	① 学会誌の2誌体制に対応した編集方針に基づき、各誌編集小委員会において会誌の一層の充実を図る。 ② 各部会との連携(特集記事／トピックス、講座の企画など)を強化する。 ③ Annual Energy Reviews 号(9月号)の各分野の内容を充実して継続する。 ④ 機関誌えねるみくすの全記事をJ-STAGEに掲載する。 ⑤ 論文誌の投稿論文数減少傾向に関する対策を検討・実施する。 ⑥ 取得したインパクトファクター値の向上等について引き続き検討を進める。
出版委員会	① 各種図書のタイムリーな出版に向けて、編集小委員会、編集WG・執筆者・出版会社・学会事務局との調整を図りながら推進する。 ② 学会誌の特集記事、講座等を活用して出版への企画を行う。
国際委員会	① 学会の各種企画や年次大会において、各部会等と協力しながら海外からの講演を推進する。 ② アジア・太平洋地区の関係者と情報交換を通じて協力・連携を図る。 ③ アジアバイオマス科学会議など、国際会議の企画・運営を推進する。
大会実行委員会	① 第34回年次大会を円滑に推進する。なお、新型コロナウイルス等の感染拡大防止にむけた安全・衛生に配慮した必要な手段を講じる。 ② 大会の中でタイムリーな内容の特別講演、基調講演等を企画、実施する。 ③ 大会の中で論文賞の表彰を行い、学会誌への論文投稿を促す。 ④ 大会の中で幹事会の開催など各部会の活動を促す。

## (2)部会活動方針および行事計画等

部会	活動方針	行事計画等
石炭科学・重質油部会	① 石炭、重質油等の炭素資源の有効利用技術、環境対応技術、脱炭素資源との混焼技術、カーボンリサイクルに関心のある研究者・技術者への科学的知見の発信と議論の場、そして相互の交流の場とする。 ② ペトリオミクス技術の拡大・普及に向けた活動をハイドロカーボニクス分科会のもと実施する。 ③ 石炭・炭素資源有効利用研究会、JCOAL、NEDO等との連携を通して、若手研究者や技術者の人材育成を推進する。	① 第62回石炭科学会議(10/30-31、新潟)を石炭・炭素資源有効利用研究会と合同開催、その前日にテクニカルツアー(10/29)を実施予定。 ② 実行委員会・幹事会の開催(4月、8月、10月)。
コークス工学研究部会	① コークス工学の深化と製造・利用技術の革新のための議論交換の場を提供する。 ② コークス生産技術の深化と関連産業への技術トランスファーおよび石炭・石油資源の有効利用技術について議論する。 ③ 石炭科学・重質油部会との連携により、石炭科学会議への研究発表と勧誘活動を行う。 ④ コークス工学における若手の研究者と技術者間の交流・討議の場を設けて活性化を図る。 ⑤ コークス・ノートの発刊により、コークス工学に関する情報の発信と部会員の増加に努める。	① 第62回石炭科学会議(10/30-31、新潟)を石炭科学・重質油部会と共同開催。「コークス」セッションの企画、運営、サイドイベントの共催。 ② 実行委員会・幹事会の開催(4月、8月、10月)。 ③ 機関誌 Annual Energy Reviews 号(9月号)の「コークス」執筆。

部会	活動方針	行事計画等
天然ガス部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 我が国の基幹エネルギーの1つである天然ガスの利用拡大の更なる推進と、カーボンニュートラルを始めとするガス体エネルギーのイノベーション実現に向け、若い世代からの参画も促しながら、最新の技術情報共有や交流を進めて行く。</li> <li>② 資源開発・利用、輸送・貯蔵、科学・反応システムの3つの分科会、およびGH(ガス・ハイドレート)等に係る研究会において、情報交換・情報提供・研究活動を推進し、部会メンバー(および関心を持つ人達)の情報の共有や交流を深めていく。</li> <li>③ 機関紙「えねるみくす」に関連の記事を掲載することで、情報発信に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 部会全体: 幹事会および部会員のための部会メールによる情報提供</li> <li>② 分科会・研究会: 見学会、講演会研究会等の実施</li> <li>③ 機関紙「えねるみくす」への関連記事の掲載</li> </ul>
バイオマス部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>① バイオマス関連の情報交換、情報発信の場とする部会としての目的を遂行する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 年次大会(8月)にて総会の開催。</li> <li>② 夏の学校(9月頃予定)。</li> <li>③ 第21回バイオマス科学会議(11月、青森予定)実施</li> <li>④ 第13回アジアバイオマス科学会議(11月予定)実施。</li> <li>⑤ バイオマス関連部会・研究会合同交流会の開催。</li> <li>⑥ 環境リサイクル部会との共同シンポジウム(旧三部会(RGB)シンポジウム)実施(6月)</li> <li>⑦ アジアバイオマス協議会への協力。</li> <li>⑧ ホームページの拡充、ホームページへの広告募集、出版、編集への協力、受託調査等への協力。</li> </ul>
新エネルギー・水素部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学会内において新エネルギー・水素関連技術開発(再生可能エネルギー、未利用エネルギー、水素エネルギー等の利用に関する技術開発)に関連する研究の促進や活性化を図る。</li> <li>② セミナー開催やメーリングリスト等を通して、上記の研究分野の最新研究動向を発信し、研究者間の情報交換や交流を行う。</li> <li>③ 上記の研究を行っている関係者で日本エネルギー学会に加入していない方々の学会への入会を促す。</li> <li>④ 年次大会での会員の研究発表を積極的に行うと共に、学会への加入を促しつつ非会員へも発表を勧誘する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 新エネルギーや水素関連技術のセミナー・見学会の開催。</li> <li>② 水素エネルギーに関する本の出版に向けた協議。</li> <li>③ 総説特集の企画。</li> <li>④ 年次大会(8月)への積極的な研究発表ならびに参加者勧誘。</li> <li>⑤ 新エネルギー・水素エネルギー技術の開発や促進を行っている他団体との交流、特に世界水素エネルギー会議を積極的な交流の場として活用する。</li> <li>⑥ 新エネルギー及び水素に関する特集号、連載講座、カーボンニュートラルにつながる新エネルギー、及び水素に関連する講演会の実施。</li> <li>⑦ 部会ホームページの更新・拡充。メーリングリストによる情報発信。</li> </ul>
燃焼部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 気候変動問題に対応する実践的な燃焼技術の調査を行ない、燃焼技術者を育成する。</li> <li>② 燃焼技術や環境技術に関連する講演会、エネルギー学会大会への発表を通して、社会への啓蒙や貢献を行う。</li> <li>③ 若年層の学会への加入や講習会への参加を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 燃焼の基礎に関する講習会の開催(7、8月、実地講習およびオンデマンド講習会)。</li> <li>② 大会でのセッションの企画。</li> <li>③ 大会等における燃焼に関する基調講演の企画・開催。</li> <li>④ 燃焼に関する見学会の企画検討及び実施。他部会との連携。</li> </ul>



部会	活動方針	行事計画等
環境リサイクル部会	① ガス化部会、リサイクル部会を統合した環境リサイクル部会として地球温暖化対策、循環経済や地域循環共生に貢献するため、科学的知見の収集と発信、関係者の交流の場とすることを活動方針とする。	① バイオマス部会と合同シンポジウムの開催(旧三部会(RGB)シンポジウム) ② 環境リサイクルに関連する講習会・セミナー等の開催 ③ 環境リサイクルに関する施設見学会の開催検討 ④ 学会大会における環境リサイクル関連セッションの企画 ⑤ 機関誌「えねるみくす」への環境リサイクル部会としての特集号の企画 ⑥ その他、環境リサイクルに関連する活動幹事会開催
液体微粒化部会	① 2025年4月に日本液体微粒化学会を統合し、液体微粒化部会として、活動を行う。国際的な枠組みを維持しつつ、活動を発展させていく。 ② 会員へのフィードバックおよび部会委員参画のメリットに重点をおいた方向で部会活動を進める。 ③ 会誌「えねるみくす」へ向けた微粒化関連記事の協力を行う。	① 部会 Web サイト整備 ② ILASS-Korea 講演会に講師派遣(10月) ③ ILASS-Asia 開催協力(10月、台湾) ④ 第19回微粒化セミナー(開催時期未定) ⑤ 第34回微粒化シンポジウム(12月、東京(予定))。 ⑥ 勉強会の開催(開催時期未定) ⑦ 幹事会(年4回程度)、部会関連行事の企画、えねるみくすへの協力を進める。
省エネルギー・消費者行動部会	① 省エネルギーセンター等との連携を強化し、下記活動方針に沿った活動を行う。 ② 環境と調和した新しいエネルギー需給構造、社会システムの構築に向けて検討を進める。 ③ 省エネルギー技術者、研究者の連携推進、省エネルギー技術シーズの「実用化」、「導入・普及」の促進への貢献を目指す。	① EECB公開セミナー(省エネ、消費者行動関連)や勉強会の開催。 ② 「エネルギー学」部会及び他部会との連携講演会や勉強会の開催。 ③ 年次大会における省エネルギー・消費者行動部会セッションの開催。 ④ 幹事会(年3回程度)。
「エネルギー学」部会	① シンポジウム(セミナー)や施設見学会の開催:他学会、他部会との共催も含めて、シンポジウム(セミナー)を開催していく。 ② エネルギー政策に関する意見交換を行う。 ③ エネルギー知識の啓蒙:エネルギー知識啓蒙のための単行本の出版を検討する。	① シンポジウム(セミナー)や施設見学会の開催。 ・カーボンニュートラル実現に向けた技術開発や事業者の取り組みに関する施設見学会を検討中。 ・地域における再生可能エネルギー資源の有効活用事例に関する施設見学会を検討中。 ・その他シンポジウム(セミナー)・見学会の開催を検討中。 ② 省エネルギー・消費者行動部会及び他部会、他学会とのセミナー・セッションの共催。 ③ 年次大会における「エネルギー学」セッションの開催。 ④ エネルギー・資源学会と共同でエネルギー検定の問題の改定を検討する。エネルギー知識普及のための単行本の出版の検討。 ⑤ 幹事会(年3回程度)。
若手研究者の勉強会	① 産・学・官における若手研究者が意見交換できる場を提供し、懇親を深め、今後の研究・開発を合目的かつスムーズに進めていくための研究者間の人と知識の有機的なネットワークを構築していく。	① 勉強会の開催(8月年次大会期間中)。 ② 幹事会(年1~2回程度)。

### (3) 支部活動方針および行事計画等

支部	活動方針	行事計画等
北海道支部	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 北海道内の関連機関の実態を踏まえ、地域性を生かした「エネルギー・資源・環境」に関わる主催行事を開催する。</li> <li>② 北海道内の他の学協会等との有機的連携ならびに各種事業の共催・協賛を積極的に推し進め、支部会員への情報発信の強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学術機関への関与強化に関する取り組み（企業施設見学会の開催）</li> <li>② 日本化学会北海道支部 2025 年夏季研究発表会（共催）</li> <li>③ 北海道大学エネルギー・マテリアル融合シンポジウム（協賛）</li> <li>④ 幹事会・総会（2025 年 1 月 22 日開催）</li> <li>⑤ 庶務幹事会（奇数月：5 回）</li> </ul>
東北支部	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 東北・新潟地区において、特徴的なエネルギーである天然ガス、風力（陸上・洋上）、地熱といったエネルギーを通して、化石燃料と再生可能エネルギーの最適利用、そして、それを生かしたサステナブルな社会構築と産業発展を示唆できるような講演会を主催行事として企画し、開催する。</li> <li>② 2050年の地球温暖化ガス排出ゼロに向け、化石燃料と再生可能エネルギーの最適利用、並びに水素・アンモニア等の2次エネルギー利用、さらにCCS活用等の方策を産学官の連携を通して検討していく。</li> <li>③ 化石燃料と再生可能エネルギーに関連する他の学協会との連携や共催を積極的に進め、交流を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 講演会および見学会の開催(10 月頃予定)</li> <li>② 他関連学協会との共催行事。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・2024 年度第 2 回カーボンニュートラル次世代人材育成セミナー(後援)</li> <li>・学都「仙台・宮城」サイエンスデイ 2025 (仙台市, 名義後援)</li> <li>2025 年度第 1 回カーボンニュートラル次世代人材育成セミナー(後援)</li> <li>・第 16 回製鉄・資源に関する Workshop (還元研究会)(共催)</li> <li>・火力原子力発電技術協会東北支部 2025 年度技術講習会および見学会(協賛)</li> <li>・火力原子力発電技術協会東北支部 2025 年度研究発表会(協賛)</li> </ul> </li> <li>③ 役員会(4 月,11 月頃開催予定)</li> </ul>
関西支部	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 石炭、重質油のみならずバイオマス等の新エネルギーも含めたセミナー等を通して横断的にエネルギーに関する情報と討論の場を提供する。</li> <li>② エネルギー源のみならず省エネルギーなどのエネルギーの有効な使用方法に関する情報の場を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 見学会(7 月)。</li> <li>② 「エネルギーの未来を担う若手のためのコロキウム 2025」(石油学会関西支部共催)(8 月)。</li> <li>③ 第 41 回セミナー(10 月)(石油学会関西支部共催)。</li> <li>④ 第 70 回研究発表会(石油学会関西支部共催)(12 月)。</li> <li>⑤ 幹事会(1 月、4 月、7 月、10 月)</li> </ul>
西部支部	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 石炭、水素、バイオマスをキーワードとしたシンポジウム、セミナーを継続。</li> <li>② 九州経済産業局殿と連携し、西部支部の地域性を生かしたセミナーの企画。</li> <li>③ 地域の学生・若手の育成および研究への活力を活性化のため、学生・若手研究発表会を実施する。</li> <li>④ 九州大学グリーンテクノロジー研究教育センター殿等と連携し、海外への CCT 技術移転などを見据えた勉強会、セミナーを通じた知識の深化を図る。</li> <li>⑤ 地域のエネルギーをキーワードとした新たな取り組み方針を検討</li> <li>⑥ 他学会(石油学会, 機械工学会, 化学工学会等)の関連支部との連携による学会活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 低炭素システム研究会(共催, 10 月)</li> <li>② 講演会および見学会の開催(3 月)</li> <li>③ 支部企画研究発表会の開催(11 月)</li> <li>④ 他学会関連支部行事の協賛</li> <li>⑤ 役員会(5 月, 8 月, 11 月)</li> </ul>

収支予算書（前年度予算対比）

2025年1月1日から2025年12月31日まで

一般社団法人日本エネルギー学会

科目	(A)	(B)	(A-B) (単位：円)
	予算額	前年度予算額	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	30,026,400	30,707,800	△ 681,400
維持会員受取会費	20,800,000	21,300,000	△ 500,000
賛助会員受取会費	1,740,000	1,720,000	20,000
正会員受取会費	7,486,400	7,687,800	△ 201,400
参加会費	150,000	0	150,000
祝賀懇親会参加会費	150,000	0	150,000
事業収益	19,870,000	21,710,000	△ 1,840,000
講演講習会収益	12,000,000	13,500,000	△ 1,500,000
分析収益	1,100,000	1,100,000	0
安息香酸収益	2,700,000	2,900,000	△ 200,000
調査研究収益	1,100,000	1,100,000	0
会誌別刷売上	60,000	70,000	△ 10,000
広告収益	330,000	530,000	△ 200,000
書籍収益	630,000	380,000	250,000
支部収益	1,400,000	1,400,000	0
会誌掲載料	550,000	730,000	△ 180,000
受取寄付金	17,068,266	0	17,068,266
受取寄付金	17,068,266	0	17,068,266
雑収益	6,000	519,500	△ 513,500
受取利息	3,000	500	2,500
雑収益	3,000	519,000	△ 516,000
経常収益計	67,120,666	52,937,300	14,183,366
(2) 経常費用			
事業費	26,491,000	25,048,000	1,443,000
講演講習会運営費	6,320,000	4,700,000	1,620,000
旅費交通費	2,710,000	2,500,000	210,000
通信運搬費	670,000	690,000	△ 20,000
消耗品費	33,000	33,000	0
印刷製本費	7,951,000	7,640,000	311,000
支部費	1,400,000	1,400,000	0
広告宣伝費	0	6,000	△ 6,000
会議費	250,000	110,000	140,000
諸謝金	1,750,000	2,020,000	△ 270,000
分析費	825,000	825,000	0
安息香酸費	2,160,000	2,320,000	△ 160,000
雑費	2,300,000	2,695,000	△ 395,000
出入金手数料	122,000	109,000	13,000
管理費	24,016,500	27,823,800	△ 3,807,300
給料手当	10,200,000	12,500,000	△ 2,300,000
社会保険料	1,600,000	1,750,000	△ 150,000
退職給付費用	219,500	1,196,800	△ 977,300
労働保険料	250,000	250,000	0
福利厚生費	40,000	30,000	10,000
会議費	1,040,000	1,200,000	△ 160,000
旅費交通費	1,400,000	1,260,000	140,000
通信運搬費	850,000	850,000	0
消耗品費	50,000	70,000	△ 20,000
印刷製本費	500,000	550,000	△ 50,000
光熱水料費	370,000	370,000	0

	(A)	(B)	(A-B) (単位: 円)
科目	予算額	前年度予算額	増減
借室費	4,600,000	4,600,000	0
保険料	7,000	7,000	0
諸謝金	90,000	70,000	20,000
租税公課	600,000	820,000	△ 220,000
雑費	2,200,000	2,300,000	△ 100,000
出入金手数料	60,000	60,000	0
経常費用計	50,567,500	52,931,800	△ 2,364,300
評価損益等調整前当期経常増減額	16,553,166	5,500	16,547,666
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	16,553,166	5,500	16,547,666
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	16,553,166	5,500	16,547,666
一般正味財産期首残高	51,617,059	55,500,189	△ 3,883,130
一般正味財産期末残高	68,170,225	55,505,689	12,664,536
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	68,170,225	55,505,689	12,664,536

## (参考) 収支予算書 (前年度決算対比)

2025年1月1日から2025年12月31日まで

一般社団法人日本エネルギー学会

科目	(A)	(B)	(A-B) (単位: 円)
	予算額	前年度決算額	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	30,026,400	29,773,208	253,192
維持会員受取会費	20,800,000	20,900,000	△ 100,000
賛助会員受取会費	1,740,000	1,844,000	△ 104,000
正会員受取会費	7,486,400	7,029,208	457,192
参加会費	150,000	0	150,000
祝賀懇親会参加会費	150,000	0	150,000
事業収益	19,870,000	16,460,161	3,409,839
講演講習会収益	12,000,000	9,955,223	2,044,777
分析収益	1,100,000	166,980	933,020
安息香酸収益	2,700,000	2,077,680	622,320
調査研究収益	1,100,000	1,100,000	0
会誌別刷売上	60,000	52,380	7,620
広告収益	330,000	585,240	△ 255,240
書籍収益	630,000	609,432	20,568
支部収益	1,400,000	1,400,000	0
会誌掲載料	550,000	513,226	36,774
受取寄付金	17,068,266	0	17,068,266
受取寄付金	17,068,266	0	17,068,266
雑収益	6,000	506,482	△ 500,482
受取利息	3,000	3,174	△ 174
雑収益	3,000	503,308	△ 500,308
経常収益計	67,120,666	46,739,851	20,380,815
(2) 経常費用			
事業費	26,491,000	22,406,113	4,084,887
講演講習会運営費	6,320,000	4,946,648	1,373,352
旅費交通費	2,710,000	1,354,771	1,355,229
通信運搬費	670,000	539,050	130,950
消耗品費	33,000	26,151	6,849
印刷製本費	7,951,000	7,871,497	79,503
支部費	1,400,000	1,400,000	0
会議費	250,000	250,735	△ 735
諸謝金	1,750,000	1,589,995	160,005
分析費	825,000	125,235	699,765
支払寄付金	0	372,751	△ 372,751
安息香酸費	2,160,000	1,662,144	497,856
委託費	0	66,674	△ 66,674
雑費	2,300,000	2,090,634	209,366
出入金手数料	122,000	109,828	12,172
管理費	24,016,500	33,080,524	△ 9,064,024
給料手当	10,200,000	11,972,476	△ 1,772,476
派遣手数料	0	726,365	△ 726,365
社会保険料	1,600,000	1,526,297	73,703
退職給付費用	219,500	439,000	△ 219,500
労働保険料	250,000	223,610	26,390
福利厚生費	40,000	38,861	1,139
退職金	0	5,520,960	△ 5,520,960
会議費	1,040,000	1,121,114	△ 81,114
旅費交通費	1,400,000	1,389,655	10,345
通信運搬費	850,000	818,492	31,508
消耗品費	50,000	40,527	9,473

	(A)	(B)	(A-B) (単位:円)
科目	予算額	前年度決算額	増減
印刷製本費	500,000	426,976	73,024
光熱水料費	370,000	351,555	18,445
借室費	4,600,000	4,604,160	△ 4,160
保険料	7,000	7,110	△ 110
諸謝金	90,000	89,096	904
租税公課	600,000	539,069	60,931
雑費	2,200,000	3,245,201	△ 1,045,201
出入金手数料	60,000	57,739	2,261
経常費用計	50,567,500	55,544,376	△ 4,976,876
評価損益等調整前当期経常増減額	16,553,166	△ 8,804,525	25,357,691
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	16,553,166	△ 8,804,525	25,357,691
2. 経常外増減の部			0
(1) 経常外収益			0
過年度損益修正益	0	5,783	△ 5,783
退職給付引当金取崩益	0	5,045,800	△ 5,045,800
経常外収益計	0	5,051,583	△ 5,051,583
(2) 経常外費用			0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	4,921,395	△ 4,921,395
当期一般正味財産増減額	16,553,166	△ 3,883,130	20,436,296
一般正味財産期首残高	51,617,059	55,500,189	△ 3,883,130
一般正味財産期末残高	68,170,225	51,617,059	16,553,166
II 指定正味財産増減の部			0
当期指定正味財産増減額	0		0
指定正味財産期首残高	0		0
指定正味財産期末残高	0		0
III 正味財産期末残高	68,170,225	51,617,059	16,553,166

収支予算書内訳表

2025年 1月 1日から2025年12月31日まで

一般社団法人日本エネルギー学会

(単位：円)

科 目	実施事業会計		その他事業会計				法人会計	合計
	会誌発行	表彰事業	講演講習会	依頼分析	調査研究	書籍	法人会計	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
受取会費	0	0	0	0	0	0	30,026,400	30,026,400
維持会員受取会費	0	0	0	0	0	0	20,800,000	20,800,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	1,740,000	1,740,000
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	7,486,400	7,486,400
参加会費	0	0	0	0	0	0	150,000	150,000
新春祝賀会参加会費	0	0	0	0	0	0	150,000	150,000
事業収益	910,000	0	13,460,000	3,800,000	1,100,000	600,000	0	19,870,000
講演講習会収益	0	0	12,000,000	0	0	0	0	12,000,000
分析収益	0	0	0	1,100,000	0	0	0	1,100,000
安息香酸収益	0	0	0	2,700,000	0	0	0	2,700,000
調査研究収益	0	0	0	0	1,100,000	0	0	1,100,000
会誌別刷売上	60,000	0	0	0	0	0	0	60,000
広告収益	300,000	0	30,000	0	0	0	0	330,000
書籍収益	0	0	30,000	0	0	600,000	0	630,000
支部収益	0	0	1,400,000	0	0	0	0	1,400,000
会誌掲載料	550,000	0	0	0	0	0	0	550,000
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	17,068,266	17,068,266
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	17,068,266	17,068,266
雑収益	3,000	0	0	0	0	0	3,000	6,000
受取利息	0	0	0	0	0	0	3,000	3,000
雑収益	3,000	0	0	0	0	0	0	3,000
経常収益計	913,000	0	13,460,000	3,800,000	1,100,000	600,000	47,247,666	67,120,666
(2) 経常費用								
事業費	9,700,000	739,000	11,370,000	3,002,000	1,640,000	40,000	0	26,491,000
講演講習会運営費	0	0	6,320,000	0	0	0	0	6,320,000
旅費交通費	0	200,000	1,760,000	0	750,000	0	0	2,710,000
通信運搬費	500,000	30,000	50,000	10,000	60,000	20,000	0	670,000
消耗品費	0	0	30,000	3,000	0	0	0	33,000
印刷製本費	7,800,000	1,000	130,000	0	0	20,000	0	7,951,000
支部費	0	0	1,400,000	0	0	0	0	1,400,000
会議費	0	0	250,000	0	0	0	0	250,000
諸謝金	900,000	0	830,000	0	20,000	0	0	1,750,000
分析費	0	0	0	825,000	0	0	0	825,000
安息香酸費	0	0	0	2,160,000	0	0	0	2,160,000
雑費	450,000	500,000	550,000	0	800,000	0	0	2,300,000
出入金手数料	50,000	8,000	50,000	4,000	10,000	0	0	122,000
管理費	0	0	0	0	0	0	24,016,500	24,016,500
給料手当	0	0	0	0	0	0	10,200,000	10,200,000
社会保険料	0	0	0	0	0	0	1,600,000	1,600,000
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	219,500	219,500
労働保険料	0	0	0	0	0	0	250,000	250,000
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	40,000	40,000
会議費	0	0	0	0	0	0	1,040,000	1,040,000
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	1,400,000	1,400,000
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	850,000	850,000
消耗品費	0	0	0	0	0	0	50,000	50,000
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	500,000	500,000
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	370,000	370,000
借室費	0	0	0	0	0	0	4,600,000	4,600,000
保険料	0	0	0	0	0	0	7,000	7,000
諸謝金	0	0	0	0	0	0	90,000	90,000
租税公課	0	0	0	0	0	0	600,000	600,000
雑費	0	0	0	0	0	0	2,200,000	2,200,000
出入金手数料	0	0	0	0	0	0	60,000	60,000
経常費用計	9,700,000	739,000	11,370,000	3,002,000	1,640,000	40,000	24,076,500	50,567,500
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 8,787,000	△ 739,000	2,090,000	798,000	△ 540,000	560,000	23,171,166	16,553,166
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 8,787,000	△ 739,000	2,090,000	798,000	△ 540,000	560,000	23,171,166	16,553,166
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 8,787,000	△ 739,000	2,090,000	798,000	△ 540,000	560,000	23,171,166	16,553,166
一般正味財産期首残高	△ 191,655,239	△ 19,401,630	74,891,378	4,225,538	△ 18,605,418	18,075,499	184,086,931	51,617,059
一般正味財産期末残高	△ 200,442,239	△ 20,140,630	76,981,378	5,023,538	△ 19,145,418	18,635,499	207,258,097	68,170,225
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	△ 200,442,239	△ 20,140,630	76,981,378	5,023,538	△ 19,145,418	18,635,499	207,258,097	68,170,225

(空白のページ)



## 第 100 回定時総会

### 【参考資料】

2024 年度日本エネルギー学会表彰 受賞者と業績

## 2024年度日本エネルギー学会各種表彰受賞者

### ○学会賞(学術部門)

エネルギーシステムの設計と評価に関する研究の推進と、エネルギー総合学の学理の確立

東京大学大学院 松橋 隆治

再生可能エネルギーを主体とした低炭素エネルギーシステムに関する先進的研究

東北大学大学院 山本 博巳

### ○学会賞(技術部門)

脱炭素社会を目指す“高砂水素パーク”を中心とした取り組み

三菱重工業株式会社

### ○進歩賞(学術部門)

水素機能材料の研究開発と社会実装への展開

産業技術総合研究所 遠藤 成輝

世界および日本エネルギー需給モデルによる、カーボンニュートラルに向けたエネルギー構成に関する研究

横浜国立大学大学院 大槻 貴司

バイオマスのガス化プロセスにおける燃料混合がガス化反応特性や灰分の溶融性に及ぼす影響に関する研究

森林総研 小井土 賢二

### ○進歩賞(技術部門)

建物付帯型水素利用システム“Hydro Q-BiC®”の開発と社会実装

清水建設株式会社／産業技術総合研究所

### ○論文賞 ※第33回大会にて表彰済み

再生可能エネルギーの環境・社会経済評価のための地域産業連関モデルの開発

横浜国立大学大学院 森泉由恵、本藤祐樹

Fundamental Properties of Ammonia Borane Aqueous Solution: Dissolution Enthalpy of Solution,

Freezing Points and Solubility Curve, Thermal analysis, Stability and Phase diagram

琉球大学 Yoshihiro SHIMIZU

沖縄工業高等専門学校 Reiya TAMAKI

琉球大学 Ankit Kumar TRIPATHI, Shuji TAKAMINE, Ye TIAN, Ko KISHIMOTO

Tasuku TERUYA, Yuri UNTEN, Hina SHINJO, Tessui NAKAGAWA

### ○奨励賞

#### 第33回年次大会発表

バイオディーゼル製造時に発生する副生グリセリンの有効利用 —もみ殻の脱リグニン処理と含有シリカの晶析—

福岡大学 戸高 昌俊

Ru-Sn/TiO<sub>2</sub>触媒によるエタノール水溶液からの水素/酢酸製造と反応機構

京都大学 野村 高志

アンモニアメタネーションにおけるNi系複合触媒へのアルカリ添加効果

広島大学 砂本 礼志

濃淡燃焼によるNH<sub>3</sub>/H<sub>2</sub> 燃焼限界の広域化と低NO<sub>x</sub> 化に及ぼす影響

香川大学 岡本 惇生

C10環状炭化水素の熱分解における原料のH/C比がすすの生成に及ぼす影響に関する実験的検討

東北大学 高橋 良明

#### 第61回石炭科学会議発表

石炭性状を用いた単味炭膨張圧の推定

関西熱化学株式会社 石本 航太郎

#### 第32回微粒化シンポジウム発表

レーザーシートによるディーゼル噴霧内部流動速度の空間分布の評価

福岡工業大学 馬原 亜季

#### 第19回バイオマス科学会議発表

ReaxFF-MDシミュレーションによる針葉樹および広葉樹由来ヘミセルロースの熱分解生成物の解析

工学院大学、カナデビア(株) 櫻井 優矢

### ○功績賞

本会の発展に対する功績

元当代会長、日鉄テクノロジー株式会社 テクニカルアドバイザー 齋藤 公児

本会の発展に対する功績

元当会理事、中部大学名誉教授 行本 正雄

## 2024 年度 日本エネルギー学会表彰 受賞者と業績

### ○ 学会賞（学術部門）

受賞者 東京大学大学院 松橋 隆治

業績 エネルギーシステムの設計と評価に関する研究の推進と、エネルギー総合学の学理の確立

カーボンニュートラル社会を実現するためには、大量導入される再生可能電源を有効に利用しつつ、電力システムの安定性を維持する必要がある。この目的のため、受賞者は、太陽光発電の未来の発電量と電力需要を確率変数とする確率的起動停止計画モデルを開発すると共に、需給調整市場での調整力の価格を、経済的負荷配分モデルにおけるシャドウプライスから定量推計した。現在の資源エネルギー庁における電力ガス基本政策委員会では、将来の電力システムにおいて、卸電力市場と需給調整市場を統合した同時市場の創設が審議されており、この同時市場においては、上述したシャドウプライスを利用した卸電力と調整力の価格を決定することを想定している。したがって、上記の分析は、今後の電力システムの性質を占う上でも、先進的で重要な示唆を与えるものである。また、電気自動車（EV）の蓄電池を集合運用して負荷周波数制御に利用するシステムにおいて、個別のEVに配分された信号の遅延を補償するシステムを開発し、論文と特許に成果をまとめた。さらに、再エネの電力の一部から水電解で水素を生産・発電し、この際に同期発電機を稼働させることで、交流の電力系統を安定的に管理するための慣性を維持する分析を行った。総合効率が通常より劣る電気→水素→電気の変換が、交流系統の慣性維持のためには有効な手段であることを、最適運用電源計画モデルにより定量的に示した。

その他の学術貢献として、東京大学において文理融合の全学組織「エネルギー総合学連携研究機構」を設立し、機構長として「エネルギー総合学」の教育プログラムを策定するなど学理の確立に尽力した。一方、同機構において、30社を超える企業を集めた研究会を立ち上げ、産業界と共にエネルギーの課題解決にも貢献した。以上、同氏の学術業績は、学界・産業界に対する貢献が大きいと認められ、本会学会賞（学術部門）に値する。

受賞者 東北大学大学院 山本 博巳

業績 再生可能エネルギーを主体とした低炭素エネルギーシステムに関する先進的研究

受賞者は再生可能エネルギーを主体とした低炭素エネルギーシステムを研究しており、特にバイオマスフローを考慮したバイオマス資源量評価、再生可能エネルギーを用いた安定電力・安定水素供給システムの低コスト化、およびカーボンエネルギー概念の導入によるエネルギーとCO<sub>2</sub>排出量の一体的評価などの、低炭素エネルギーシステムの先進的研究について貴重な成果をあげている。これらの業績は、本学会論文賞（2022年）、進歩賞（2010年）、他学会の論文賞（3度受賞）など、その業績は国内で高く評価されるとともに、従来は困難であったバイオマス資源量のシステム評価を実現した研究論文はIPCC第4評価報告書WG3、IPCC再生可能エネルギー特別報告書（SRREN）において引用されるなど世界的にも高く評価されている。

また受賞者は、本学会バイオマス部会長（2021年から2022年度）、「エネルギー学」部会政策分科会長や企画委員など当学会への組織的貢献も大きい。加えて候補者は、バイオマス持続可能燃料の分野で、経済産業省資源エネルギー庁、国連機関であるICAO（国際民間航空機関）、NEDOなどの多くの委員会委員を務めて、持続可能燃料の開発・普及に貢献している。

以上のように、長年にわたって受賞者は再生可能エネルギーを主体とした低炭素エネルギーシステムの先進的研究に関する多数の論文を発表し、その業績については国内外で高い評価を得ているだけでなく、本学会や各種委員会での中心的な立場から、学会および産業界に大きく貢献していることから、本会学会賞（学術部門）に値する。

## ○ 学会賞（技術部門）

受賞者 三菱重工業株式会社

業績 脱炭素社会を目指す“高砂水素パーク”を中心とした取り組み

世界でカーボンニュートラル社会の構築が急がれる中、三菱重工業株式会社は、火力発電の脱炭素化をはじめ、様々なカーボンニュートラル化の取り組みを進めている。同社の高砂製作所に整備された「高砂水素パーク」では、水素設備、大型ガスタービンに加えて・中小型ガスタービンの各種発電設備を有し、更に大型発電設備は地域電源グリッドに接続され、水素運転実証水素製造から商用発電に至る様々な新技術が、世界で初めて一貫して検証されている。

同パーク内では 2023 年 11 月に、大型ガスタービンによる 30%水素混焼商用発電実証を世界で初めて達成している。水素製造に関しては、同社長崎地区を中心に開発中の各種先端技術の実証にも取り組んでおり 2024 年 3 月には世界最大級の高温水電解(SOEC) 400 kW 級デモ機の運転を開始、その他ターコイズ水素・AEM 水電解・SOEC の商用実証準備が進められている。ガスタービン本体を除く水素パーク関連での特許出願は 95 件に達し、我が国の水素関連技術競争力向上にも大いに貢献している。

また、同社の取り組みは国内外の注目を集め、2023 年度の要人を含む同パークの視察来場者数は 9900 人を超え、また、COP29 等国际イベントでの出典等を通じて多くの報道も成され、水素技術の認知度向上の観点において社会への波及影響も大きい。同社の水素関係の多様な取り組みは、水素社会の実現には必要不可欠なものであり、我が国および世界的な水素社会実現に向けた意識向上にも大きく寄与しており、本会 学会賞(技術部門)に値する。

## ○ 進歩賞（学術部門）

受賞者 国立研究開発法人産業技術総合研究所 遠藤 成輝  
業績 水素機能材料の研究開発と社会実装への展開

同氏は、非危険物である水素吸蔵合金を用いた水素貯蔵技術が、現行法で規制の厳しい街区で水素の大量貯蔵を可能とする唯一の方法であることに着目し、実運用可能なチタン鉄（TiFe）合金を開発した。加えて、水素機能材料（水素吸蔵合金及び金属系水素透過膜）の研究を企業と共に行い、論文・知財はもとより社会実装まで展開し、優れた成果を挙げている。具体的には、実規模でも10気圧（1MPa）・80℃未満で活性化が行える合金を開発、および活性化手法の獲得に世界に先駆けて成功した。開発合金は消防法危険物に該当せず、大手ゼネコンと共同開発した水素利用システムに計20トン以上が採用され、社会実装に大きく貢献している。

また、水素透過膜の開発においても、パラジウム系合金膜の高コストの主要因である成膜工程について、めっき会社と共同開発した独自のワンステップ成膜でブレークスルーを起こし、また支持体との複合膜化による高耐圧合金膜を開発して注目を集めている。本合金膜についても試験的なものであるものの社会実装が進んでいる。

これらの業績は学術的独自性および産業界への貢献が高く、将来のカーボンニュートラル化に必要な不可欠なものであり、本会進歩賞（学術部門）に値する。

受賞者 横浜国立大学大学院 大槻 貴司  
業績 世界および日本エネルギー需給モデルによる、カーボンニュートラルに向けたエネルギー構成に関する研究

同氏はエネルギー需給モデルの開発およびエネルギー需給構造の将来像に関する研究に従事し、日本および世界のカーボンニュートラル（CN）に向けた道筋や技術選択を検討するなど、学術的および政策的に重要な示唆を与えてきた。

エネルギー需給モデルは50年以上前から研究開発が行われてきた分野であるが、既往のモデルは計算資源やデータの入手可能性の問題から地理的・時間的解像度が粗く、気候変動緩和における変動性再生可能エネルギー（再エネ）の経済的価値や、エネルギーの国際サプライチェーンを適切に表現することが困難であった。同氏は、現代の計算資源の発展や公開データの質の向上に着目し、大規模数理モデリング技術を駆使して地理的・時間的解像度を飛躍的に高めたモデルを開発した。このモデルは変数が数億にも及ぶ、世界的にも類を見ないものである。そして、氏は、開発モデルを用いて多数のケーススタディを行い、その価値を示してきた。例えば、日本の2050年CNに向けた分析では、再エネや原子力、CO<sub>2</sub>回収貯留、水素キャリアなどの幅広い脱炭素技術を組み合わせること重要性を示した。また、世界を363地域分割で表現したモデルを用いて、水素キャリアの国際貿易の可能性や経済的課題を示した。さらに、同氏のモデルは総合資源エネルギー調査会基本政策分科会をはじめ、我が国の政策審議会にも貢献している。

このように、同氏は、他に類を見ない高解像度なエネルギー需給モデルを用いた将来シナリオ分析を可能とするなど学術的な貢献が認められ、本会進歩賞（学術部門）に値する。

受賞者 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 小井土 賢二  
業績 バイオマスのガス化プロセスにおける燃料混合がガス化反応特性や灰分の溶融性に及ぼす影響に関する研究

同氏は、バイオマスのガス化における燃料特性評価の分野において、化学工学的研究を実施することで、以下に挙げる成果を創出した。

小規模木質ガス化プロセスの燃料として未利用材のみを用いる場合、木質資源の安定的確保には課題がある。そこで同氏は地域資源である草本、農業残渣、廃菌床、剪定枝、栽培木本などを未利用材に混合して、従来のガス化と同等またはそれ以上の効率が得られる条件を解明し、地域バイオマス資源を効率的に活用するための方策を提案した。

また、木質ガス化の反応速度モデルにおいては、従来のモデルが反応中盤で反応速度の実験値を過小に見積もる一方、反応終盤では過大に推定するという課題があった。同氏らは、従来モデルに補正パラメータを付与した反応速度モデルを提案することで、実験値の高精度推定が可能となり、より高効率なガス化炉やプロセスの設計を可能とした。

さらに、炉内で形成される固化物（クリンカ）の発生抑制については、従来の添加剤使用が環境負荷や調達コストの面で課題となっていた。同氏らは、スギ材に廃菌床やアカマツ材・クロマツ材等を混合することで灰の溶融温度を高める新たな手法を提案し、その改善効果を包括的に評価するとともに、実プラントで実証を行った。

これらの成果は、バイオマスエネルギーの燃料柔軟性を促進するうえで重要な貢献を果たしており、本会進歩賞（学術部門）に相応しいものである。

## ○ 進歩賞（技術部門）

受賞者 清水建設株式会社／国立研究開発法人 産業技術総合研究所  
業績 建物附帯型水素利用システム“Hydro Q-BiC<sup>®</sup>”の開発と社会実装

受賞者らは、建物で安全かつ効率的に水素を活用するシステム“Hydro Q-BiC<sup>®</sup>”を開発した。本システムは、再生可能エネルギー（再エネ）の余剰電力を活用して水素を製造、水素吸蔵合金に貯蔵し、必要時に燃料電池で発電する仕組みである。2021年に石川県金沢市の清水建設北陸支店新社屋に本システムは導入され、温室効果ガス排出量削減やBCP機能向上に貢献している。平日の太陽光発電電力は主に建物内で直接使用し、休日の余剰電力を蓄電して効率的に活用することで買電量を削減している。また、定格水素貯蔵量は約2000kWh相当で、水素吸蔵合金を用いた屋内設置型水素利用システムとしては世界最大級の規模を誇る。

さらに、本システムは2023年度から供用を開始した東京都内の清水建設NOVAREにも導入されている。NOVAREでは、再エネ由来のオフサイト水素活用を取り入れ、外部のメガソーラー発電所で製造された水素を圧縮・輸送して利用する仕組みが導入されており、2024年6月から本格的に運用が開始された。受賞者らはシステムの改良を続けており、他のオフィスや工場にも導入が進められている。これらの業績は、水素を用いた建物の脱炭素化やレジリエンス向上に大きく貢献したものであり、本会進歩賞（技術部門）に値する。

## ○ 論文賞

受賞者 森泉由恵†、本藤祐樹（†Corresponding author）

横浜国立大学大学院環境情報研究院

業績 再生可能エネルギーの環境・社会経済評価のための地域産業連関モデルの開発

本研究では、地域における再生可能エネルギー技術の導入がもたらす環境・社会経済効果を評価するための再生可能エネルギー部門拡張産業連関モデル・地域版（Renewable Energy Focused Input-Output model for Region: REFIO-Region）を開発している。REFIO-Region の作成は次の2段階のプロセスで構成されている。第一に、国と47都道府県の産業連関表、経済センサス活動調査など各種統計を用いて、1,741市区町村の産業連関表（地域内表）を作成し、第二に、1,741市区町村を任意の2地域に分類して2地域間表とするとともに、12種の再生可能エネルギー技術に関わる部門を結合することで、2地域間産業連関モデル、すなわちREFIO-Regionを構築している。REFIO-Regionは、わが国の1,741市区町村の産業構造ならびに12種の再生可能エネルギー技術の技術構造を詳細に表現しており、各技術の地域レベルの導入効果を詳細に分析可能であるとしている。REFIO-Regionを用いて、18市町村で構成される熊本連携中枢都市圏に風力発電を導入した場合の地域経済効果についてケーススタディを実施し、ケーススタディの結果は風力発電と導入地域の特徴を反映したものとなっており、本モデルの有効性を示している。

以上の通り、本論文は基礎自治体レベルでの産業連関モデルを構築したものであり、このようなモデルを構築した事例は他に存在せず、また、同モデルは再エネ導入効果が地域経済に及ぼす影響を推計する上で非常に有用なツールであると考えられる。その精緻さや有用性から論文賞に値する。

受賞者 琉球大学 清水 吉大\*、Ankit Kumar TRIPATHI\*\*、高嶺 秀次、田野\*\*\*、岸本 航\*\*\*\*、  
照屋 佑、運天 勇利、新城 陽菜、中川 鉄水

沖縄工業高等専門学校 玉城 伶弥

\*現所属：龍谷大学、\*\*現所属：the University of New South Wales、\*\*\*現所属：沖縄コンベンションビューロー、\*\*\*\*現所属：金秀バイオ

業績 Fundamental Properties of Ammonia Borane Aqueous Solution: Dissolution Enthalpy of Solution, Freezing Points and Solubility Curve, Thermal analysis, Stability and Phase diagram

水素社会の実現には水素の製造、貯蔵・輸送、利用技術の成熟が必要である。貯蔵技術は現在高圧水素および液体水素が利用されつつあるが、更なる高密度化には水素貯蔵材料の技術確立が不可欠である。アンモニアボラン（ $\text{NH}_3\text{BH}_3$ 、AB）は重量水素密度が19.6 wt.%と非常に高く、水素貯蔵材料として有望である。ABは固体利用だけでなく、水や液体アンモニア溶液中での利用も検討されている。しかし製品化のためには水素放出性能のみならず、利用時の取り扱いに必要な基礎的な物性は十分に評価されておらず、データが不足している。

本研究では、AB水溶液を用いた水素発生システム製品化で把握する必要のある、特に重要な基礎物性を調査し、AB-水二元相図では製品として利用可能な温度・濃度範囲を明らかにした。溶解度、固体・水溶液の密度を基に、輸送時の形態（水溶液 or 別々に輸送）について検討し、ABの嵩密度が概ね0.5 g/cm<sup>3</sup>より小さい場合は水溶液輸送が有利であることを示された。水和エンタルピーはKClと同程度であった。AB水溶液は室温で密閉していても3カ月で劣化し、40℃以下で保管する必要があることを明らかにした。

以上のように、本論文は水素貯蔵材料として期待されるアンモニアボランに関して、その水溶液の物性に関する基礎的な解析が非常に丁寧に行われている。本研究の検討は基礎的な解析である一方、これまでになされてこなかった検討であり、かつ実用を想定した条件で検討がなされていることから、本研究で得られた知見は今後アンモニアボランを実用的に活用するにあたって新規かつ重要なものであり、本会論文賞に値する。



## ○ 奨励賞

### 【第 33 回年次大会発表】

受賞者 福岡大学 戸高 昌俊

業績 バイオディーゼル製造時に発生する副生グリセリンの有効利用ーもみ殻の脱リグニン処理と含有シリカの晶析ー

同氏は第 33 回年次大会（2024 年 8 月 7、8 日）の研究発表において優れた成績と認められました。

受賞者 京都大学 野村 高志

業績 Ru-Sn/TiO<sub>2</sub>触媒によるエタノール水溶液からの水素/酢酸製造と反応機構

同氏は第 33 回年次大会（2024 年 8 月 7、8 日）の研究発表において優れた成績と認められました。

受賞者 広島大学 砂本 礼志

業績 アンモニアメタネーションにおける Ni 系複合触媒へのアルカリ添加効果

同氏は第 33 回年次大会（2024 年 8 月 7、8 日）の研究発表において優れた成績と認められました。

受賞者 香川大学 岡本 惇生

業績 濃淡燃焼による NH<sub>3</sub>/H<sub>2</sub> 燃焼限界の広域化と低 NO<sub>x</sub> 化に及ぼす影響

同氏は第 33 回年次大会（2024 年 8 月 7、8 日）の研究発表において優れた成績と認められました。

受賞者 東北大学 高橋 良明

業績 C10 環状炭化水素の熱分解における原料の H/C 比がすすの生成に及ぼす影響に関する実験的検討

同氏は第 33 回年次大会（2024 年 8 月 7、8 日）の研究発表において優れた成績と認められました。

### 【第 62 回石炭科学会議発表】

受賞者 関西熱化学株式会社 石本 航太郎

業績 石炭性状を用いた単味炭膨張圧の推定

同氏は第 62 回石炭科学会議（2024 年 10 月 30、31 日）の研究発表において優れた成績と認められました。

### 【第 32 回微粒化シンポジウム発表】

受賞者 福岡工業大学 馬原 亜季

業績 レーザーシートによるディーゼル噴霧内部流動速度の空間分布の評価

同氏は第 32 回微粒化シンポジウム（2023 年 12 月 27、28 日）の研究発表において優れた成績と認められました。

### 【第 19 回バイオマス科学会議発表】

受賞者 工学院大学、カナデビア(株) 櫻井 優矢

業績 ReaxFF-MD シミュレーションによる針葉樹および広葉樹由来ヘミセルロースの熱分解生成物の解析

同氏は第 19 回バイオマス科学会議（2023 年 12 月 7、8 日）の研究発表において優れた成績と認められました。

## ○ 功績賞

**受賞者** 元当会会長、日鉄テクノロジー（株）テクニカルアドバイザー 齋藤 公児  
**業績** 本会の発展に対する功績

齋藤公児氏は、1982年に名古屋工業大学工学部工業化学科を卒業後、同大学院修士課程を修了し、1984年に新日本製鉄（株）に入社された。その後、先端技術研究所、ドイツアーヘン工科大学を経て、2009年に製鉄研究部長に昇任した。2012年に本社製鉄技術部長、そして2015年にフェロー（執行役員待遇）に就任した。日本製鉄（株）を2021年に定年退職後、一般財団法人 金属系材料研究開発センター 特別研究員、日鉄総研株式会社 シニアフェロー、その後日鉄テクノロジー（株）テクニカルアドバイザーを務めている。

齋藤氏は、一貫して製鉄工程の操業と研究と分析技術開発に従事し、特に石炭のSCOPE21技術の開発に特化し、そのメカニズム解明を担当し、大分製鉄所での実機化に貢献した。その成果は2013年の大河内記念会 大河内賞の受賞につながっている。2000年には、「軟化溶融石炭の動的粘弾性挙動」で論文賞、2004年には「核磁気共鳴法を利用した石炭の精密構造解析技術の開発及び石炭資源の有効利用の技術に関する研究」で進歩賞（学術部門）を、それぞれ受賞されている。また「環境調和型製鉄技術開発」や「石炭利用基盤技術開発」等のNEDOのプロジェクトに参画するとともに、多くのプロジェクトの採択委員、経済産業省のCCUのロードマップ作成にも携わった。その他、多くの大学での客員教授や非常勤講師として、人材育成にも貢献した。

当学会においては、2013年から2014年、2017年から2020年まで副会長を、また2021年から2022年まで会長を務めるなど、齋藤公児氏は当会の発展に長らく、また大きく貢献したことに加えて、エネルギー研究分野の進展、研究者の育成などに取り組み、その顕著な業績は功績賞に値する。

**受賞者** 元当会理事、中部大学 名誉教授 行本 正雄  
**業績** 本会の発展に対する功績

行本正雄氏は1978年川崎製鉄株式会社（現 JFE スチール株式会社）に入社し、2006年 JFE ホールディングス株式会社を退社、その間鉄鋼プロセスの資源循環、廃棄物ガス化溶融炉（サーモセレクト方式）の導入開発と事業化、および DME（ジメチルエーテル）製造に関する実証研究に携われた。その後、2006年中部大学工学部機械工学科教授に赴任し、革新的プラスチックリサイクル技術開発（沈降式選別、触媒油化）、ミナミアオノリを用いた藻類培養システムに関する研究、バイオ燃料の新精製法の開発を手掛け、多くの研究成果をあげられました。2024年中部大学を退職、名誉教授に任じられた。

日本エネルギー学会においては、2011年4月より2023年3月まで本学会理事会役員（理事）を12年間務め、当学会の運営、発展に尽力されるとともに、同氏は2013年4月より2017年9月まで6年間（年次大会第22回～第26回）大会実行委員長を務められた。さらに、2022年4月より2023年3月まで本学会創立100周年記念事業として特別号出版小委員会委員長を務め、「創立100周年記念誌」の出版を取り纏められた。

同氏は2009年4月よりリサイクル部会長を2024年3月まで15年間務め、出版編集委員長（編著者）として、本学会編「廃プラスチックの現在と未来」～持続可能な社会におけるプラスチック資源循環～の出版（創立100周年記念出版事業の一つ）に尽力された。

行本正雄氏は、上述の通り、エネルギー関連研究分野の進展に対する長らくの貢献、多くの研究者の育成など、様々な観点から極めて顕著な貢献をされてきたことから、本会功績賞に値する。